週刊 YEAR BOOK

1930
昭和5年

日録20世紀

7|21
平成10年7月21日発行
(毎週1回発行)第2巻第27号
¥560
講談社

日本人134人を殺害した「霧社事件」の背景
東京―大阪間、夢の超特急「つばめ」発車!
"非暴力"ガンジー、390キロの「塩の行進」

浜口首相狙撃事件!

「軍縮」「緊縮財政」「金解禁」が命とりに東京駅頭でテロに遭った二人目の首相！
浜口雄幸「男子の本懐」と大失業時代

大正時代に実現した政党政治の象徴が原敬なら、昭和初期にその終焉を体現したのは浜口雄幸だろう。二人の共通点は、一一月の金曜日に東京駅でテロに遭ったことだ。井上準之助蔵相、犬養毅首相なども犠牲になる昭和のテロリズムの開始を告げた浜口首相狙撃。病を押して登院し続けた彼の死は、政党政治の衰退と軍部・右翼の台頭を象徴する出来事だった。

至近距離から狙撃重傷を負った首相

虫の知らせだったのだろうか。昭和五年一一月一四日の朝、東京・小石川の自宅で旅支度をしている浜口雄幸首相（六一）に、夏子夫人はこの日に限って、「物騒な世間ですから、お身体に間違いないように、警戒を厳重に遊ばしては」と声をかけた。浜口は気にとめる様子もなく、「厳重にしても、やられる時はやられるよ」と答えて車に乗りこんだ。岡山県で挙行中の陸軍秋季大演習を観覧するため、午前九時に出発する超特急「つばめ」に乗ろうと東京駅へ向かったのである。

午前八時五六分、篠のステッキを手に静かな足取りで東京駅のプラットホームを歩く浜口は、中島弥団次秘書官らの側近、護衛の警察官たちを従えていた。

やがて首相が、六両目にあたる一等車の乗降口まで、あと三、四メートルの距離に近づいた時、〝パン〟という突然の銃声。「コハ何事ぞ！」その鈍い音響が消えるか、消えぬ間に、浜口首相の歩みが止まった。従者すら気づかなかったその瞬間！浜口首相は拳を固めたまま、ヒタと下腹部を押さえた。と同時にヨロヨロと両膝が崩折れてノメルように打っ伏した。その時、首相の顔面は、全く血の色が失せていた」（『週刊朝日』の昭和史』）

「やられたっ」――そう叫んで首相の腋下を支える中島秘書官に、浜口は「大丈夫だ」と気丈に答えたものの、臍下三センチに命中した弾丸が結腸の腸間膜を貫通し、左臀部に残る重傷を負っていた。

凶漢は、右翼団体「愛国社」に属する佐郷屋留雄（二二）だった。モーゼル式八連発拳銃を握っていた佐郷屋は、現場の警察官に組み伏せられ、すぐに逮捕される。「愛国社」は、軍部との関係が深い右翼団体。武器となった拳銃は、別の構成員が佐郷屋に貸したものだった。

一方、駅長室に運ばれた浜口は、駆けつけた次男から二〇〇ccの輸血を受けた。午前一一時二五分に東京帝大病院に移送、手術を開始。銃弾が血管をはずれていたため、命を取りとめることができた。

一四日に号外を出した新聞各紙は、「浜口首相　東京駅にて狙撃される！」の後も競うように病状を報道。狙撃直後に首相がもらしたという「男子の本懐だ」の台詞が劇的に伝えられ、「待望のガス出づ」と首相の腸が動き始めたことを意味する〝おなら報道〟で話題を呼んだ。

争議の頻発と失業者裏目、裏目に出た政策

こうした報道からもうかがえるように、浜口首相は、けっして人気のない政治家ではなかった。彼を評して、「謹厳実直で潔癖性なあまり、時には求められる〝根回し〟をしない希有な政治家だった」と

▲東京駅の第4プラットホーム（現在の7、8番線）で狙撃された浜口首相。ただちに駅長室へ運びこまれた。　日刊写真通信社／講談社資料センター

朝日新聞社（3点とも）

▲閉店や倒産に追いこまれた商店や零細企業は、危機的状況に居直る形で商品を宣伝、販売した。

◀〝身売り列車〟で、上野駅に着いた農家の女性たち。

▼前年の10月27日、日雇労働者を受け付ける東京市社会局。都市の失業問題は、深刻な事態に。

◎表紙　昭和5年11月14日、浜口雄幸首相は、東京駅で右翼・佐郷屋留雄に狙撃され、瀕死の重傷を負った。　日刊写真通信社　講談社資料センター

「軍縮」「緊縮財政」「金解禁」が命とりに
東京駅頭でテロに遭った二人目の首相！

浜口雄幸「男子の本懐」と大失業時代

▲狙撃犯、佐郷屋留雄。『警視庁史』は、「公判廷における（佐郷屋の）陳述は支離滅裂」と記している。

▶昭和5年4月23日、第58議会にのぞむ（写真上方右端より左へ）浜口雄幸首相、幣原喜重郎外相、井上準之助蔵相。この年2月の総選挙では、与党・民政党は、野党・政友会に約100議席の差をつけて圧勝した。

毎日新聞社

語るのは、浜口雄幸の研究家として知られる常磐大学の波多野勝教授である。

大蔵省の役人から政治家に転じた浜口は、大蔵大臣などを歴任。昭和二年に立憲民政党初の総裁になるが、その際、後に浜口の後ろ盾になる三菱財閥の仙石貢は「のろまな浜口が新党総裁？　できるわけないよ。第一、浜口には一銭の金だってないんだから」と話したという。〝清貧な首相〟を求めたのは、ある意味で昭和初期という時代そのものだった。

昭和四年一〇月、ニューヨーク株式市場の大暴落に端を発する世界大恐慌の嵐は、日本にもおよんだ。同年七月に成立していた浜口内閣は、「緊縮財政」を断行。翌五年一月には、日本の金融を世界の足並みに合わせる「金解禁」（コラム参照）を実施した。さらに、四月には軍事費削減につながるロンドン海軍条約（日本海軍の補助艦を対米六・九七割、対英六・七八割に削減する）に調印する。

「ところが、こうした政策が裏目に出たんです。金解禁で言えば、世界恐慌の最中に実施したことで『嵐の日に家の窓を開けた』と言われるように、日本経済の底辺にある中小企業や農村が恐慌の猛威を受けてしまった。景気回復への期待が大きい庶民の中には、経済的見地から国際協調を進めた浜口内閣に裏切られたと感じた人々もいたわけです」と、東京外国語大学の長幸男名誉教授は語る。

事実、昭和五年になると、生糸・米価の価格が暴落した農村では、娘を身売りする農家が激増。都会でも、操業短縮や合理化の名のもとに大量の首切りや賃金引き下げが行われ、労働争議は翌六年で二四五六件にのぼる。国勢調査（昭和↖五年一〇月発表）による当時の失業者数は三二万二〇〇〇人だが、実態は八〇万人とも、一〇〇万人とも言われた。新卒採用状況は、大学卒で一割二分、専門学校卒で一割六分、中等学校卒で二割六分と、就職率の低さが際立っている。

一方、浜口首相を苦境におとしいれたもうひとつの難題が、「軍縮」だった。

「彼がロンドン軍縮会議でしたことは、文官の若槻礼次郎を送って軍縮を強行する一種のシビリアンコントロールでした。

そこで、海軍や野党から『内閣による軍備削減は、天皇の統帥権を犯すもの』という、統帥権干犯問題で糾弾されてしまう。妥協せず、反対派に落としどころを用意しない剛直な人柄が、彼自身を追いこんだのでしょう」（前出・波多野教授）

犯人の佐郷屋は、犯行動機を、「浜口の経済政策の失敗と、統帥権干犯」にあるとした（昭和八年に死刑判決が確定するが、減刑恩赦で一五年に仮出獄）。

しかし、浜口首相は昭和天皇を無視するどころか、天皇にうながされて軍縮を行っていた。平成元年に発見された「浜口日記」によって、天皇が「平和のために早くまとめよ」と語り、条約締結を支援していた事実が判明しているのである。

結局、「歴史的に見て、戦前において最も高水準の政党政治を行った」（前出・長教授）と言われる浜口首相は、無理を押して昭和六年三月一〇日から登院し質疑に応答したが、化膿症を併発。八月二六日に逝去してしまう。

浜口の死後二三日目に、「柳条湖事件」が発生。関東軍が「満州事変」へ暴走する中で、〝歯止め〟を失った日本は、日中戦争への第一歩を踏み出すのである

昭和初期の〝金融ビッグバン〟浜口内閣の致命傷になった「金解禁」とは？

「金輸出解禁を決行するも、財界に憂慮すべき影響をもたらすが如きことはないと確信している」――昭和5年1月11日、浜口首相は懸案の金解禁を決行するにあたり、声明を発表した。第1次世界大戦で停止された金本位制度を解禁し、自由に通貨と金との兌換（国際的には金の輸出入）ができるようにするこの政策は大正8年以降、欧米各国が実施。日本では、昭和2年の金融恐慌で遊資を抱える銀行、財界の間に待望論があったが、不安定な国内経済の影響で解禁が遅れていた。

浜口内閣は、大銀行や財界の支持を獲得する、日本の金融を世界標準にするなどのねらいから金解禁を断行したが、昭和4年来の世界恐慌の影響下で行われたため、結果的に国内から金が大量流出し、日本は大不況におちいった。企業倒産が続出する中で経済支配力を強めたのは、皮肉にも冒頭の首相発言にあった大資本だけで、政府の前宣伝に〝金解禁―景気回復〟の幻想を抱いた中小企業や庶民は、失政の犠牲になった。

昭和6年12月13日、犬養内閣が成立するや、金輸出は再禁止されることになる。

◀神戸港での金塊積み出し（昭和五年）。

毎日新聞社

▶翌六年三月、傷の癒えない浜口首相は、野党攻勢に応じるため登院、満場の拍手に迎えられた。

毎日新聞社

日本人一三四人が殺害された合同運動会の日「霧社事件」勃発！

台湾・少数民族はなぜ蜂起したか

昭和五年一〇月、台湾中央部の高原の集落・霧社で日本人が襲撃され、一三四人が死亡、多数が負傷する事件が起こった。日本の植民地支配に対する、台湾の少数民族による決死の武力抵抗だった。日本による植民地統治の中では比較的円滑だったとされる台湾でも、こうした血生ぐさい抗日蜂起が起こっていたのである。

▲日本軍は、蜂起に参加しなかった五社の「味方蕃」に銃を貸与し、反乱鎮圧に従わせた。写真は、出動前に射撃の訓練を受ける「味方蕃」。　毎日新聞社

鬱積した怒り、屈辱感が徹底した反日報復劇に

昭和五年一〇月二七日、台湾中央部の山岳地帯にある霧社では、小学校の運動会が行われようとしていた。現地の少数民族（日本側は「蕃人」「蕃族」と呼んだ）の子どもが学ぶ「霧社公学校」と、日本人学校が共催するこの運動会には、在住するおもだった日本人が来賓として顔をそろえる予定になっていた。

午前八時、会場の公学校に小笠原慶太郎郡守ら来賓が到着した。高地人（タイヤル族）のほか、本島人（漢民族）、日本人など約四〇〇人が会場を埋めていた。

八時すぎ、日の丸が掲揚され、君が代斉唱で開会式が始まった時、高地人の民族衣装に蕃刀を振りかざした男が侵入して、台中州理蕃課の嘱託・菅野政衛の首を一刀のもとに切断した。その直後、これを合図に約三〇〇人の武装した高地人が会場に突入。蕃刀や槍を手にした彼らは、日本人を片っ端から血祭りにあげ、会場は阿鼻叫喚の地獄絵と化した。殺害された日本人は一三四人、負傷者は一一五人。しかも日本人以外は、漢民族二人が誤って殺害されただけ。徹底した反日報復劇だった。

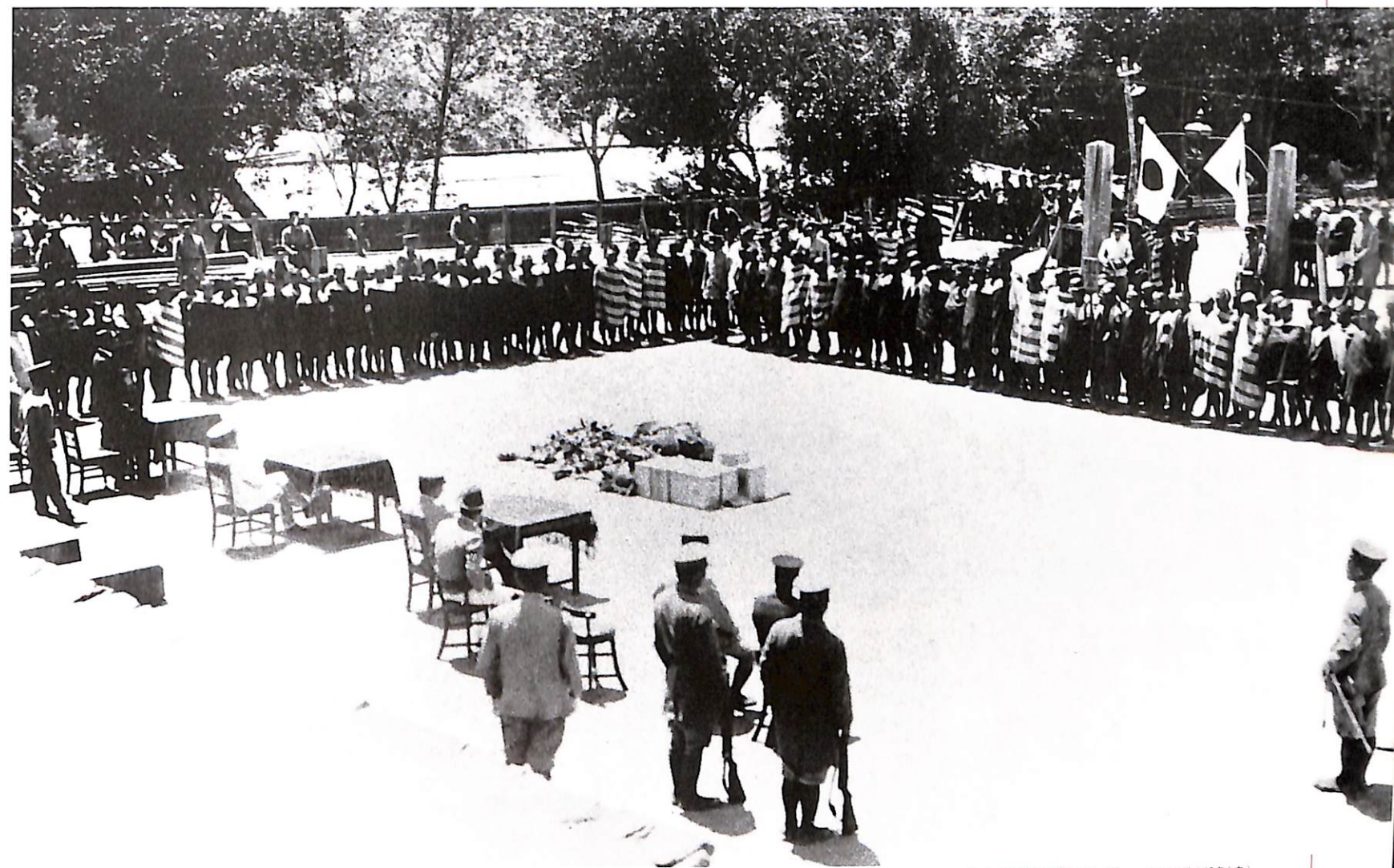
霧社は標高一〇〇〇メートルの高原で、周囲は二〇〇〇メートルを越す山並みに囲まれている。約二〇〇〇人のタイヤル族はここで「社」と称する一一の集落に分かれ、農業と狩猟を生業としていた。このうち、六つの社が今回の蜂起に参加したのだった。

事件当時、日本側はタイヤル族から狩猟用の銃を取り上げ、使役を強要していた。タイヤル族は、土木建設工事や、伐採木の運搬に絶え間なく動員され続け、しかも労賃の支払いは常に遅れ気味だった。それにもまして彼らを憤怒させたのは、樹齢三〇〇〇年を越える檜の伐採だった。彼らにとって檜は神そのものであり、けっして檜に斧を入れることはなかった。それを無惨に切り倒し、あまつさえ危険な崖を、人力だけで製材所まで十数キロも運ばされたのである。鬱積した彼らの怒り、屈辱感に日本側は気づくことはなかった。しかも、日常的に暴力が振るわれていた。

▲マヘボ社を率いる蜂起の指導者、モーナ・ルーダオ（写真中央）。　毎日新聞社

台湾は明治二八年、日清講和条約によって日本の植民地となった。初期の台湾統治は武力を前面に押し出し、割譲から八年の間に、人口の一パーセントにも達する三万二〇〇〇人を殺害し、激しい反日感情を生んでいた。その後「理蕃政策」と呼ばれる柔軟路線に転じたが、反日気運は変わらなかったのである。さらに、高地の少数民族の居住地域には、当初、まったく手がつけられないでいたのが実状だった。霧社に日本人が初めて足を踏み入れたのは、明治三〇年のこと。深堀安一郎大尉の指揮する一五人が状況偵察を試みたが、少数民族の襲撃で全滅している。

明治三六年、台湾総督府は卑劣な策を用いて霧社支配のきっかけをつかむ。総督府は、タイヤル族とは仇敵関係だったブヌン族をたきつけ、対日反抗のため手を結ぼう、とタイヤル族にもちかけさせた。「和解」の酒宴で、したたかに酩酊したタイヤル族約一〇〇人は、ブヌン族によってほぼ全滅させられた。これをきっかけに日本軍の霧社弾圧が開始され、翌明治三七年、タイヤル族は日本の軍門に下ったのである。

▲台中州の山地にある霧社の全景。日本人157人、漢族系台湾人111人が住み、タイヤル族（約2000人）とは別の集落を作っていた。

▲翌6年5月に行われた、日本軍および「味方蕃」「保護蕃」の和解式。太平洋戦争中、徴用された高地人はニューギニアに送られ、多くの犠牲者を出した。 毎日新聞社（2点とも）

こうした憤懣が、霧社事件として、いっきょに爆発したのである。

少数民族同士を闘わせ幼児の首にも賞与金が

事件後、台湾の日本人社会は一大パニックにおちいった。総督府はただちに武力鎮圧を決断し、軍隊・警察を急行させる。しかし、高地戦にも地理にも不案内だったため、いっこうに戦果は上がらなかった。一進一退の攻防に業を煮やした日本側は、「戦術」を転換する。まず蜂起に不参加の高地人を籠絡し、「味方蕃」と呼んで少数民族同士を闘わせる方針をとった。そのうえ、味方蕃に「馘首賞与金」を与えたのである。蜂起のリーダーであるモーナ・ルーダオの首には二〇〇円、頭目の首に一五〇円から二〇〇円、幼児の首にすら二〇円の値がつけられた。この作戦はきわめて効果的であった。

その一方で日本軍は、霧社に臨時飛行場を設置、空中からの攻撃に主力を注ぐ方針をとった。日本軍は催涙ガスと主張したが、台湾では糜爛性ガス、つまり化学兵器が投入されたと信じられている。

最新兵器と、警察隊一・一六三人、軍隊一・一九四人の動員、そして五十余日の時間をついやして霧社周辺は「平定」された。指導者モーナ・ルーダオは、親族・八人とともに集団自決。蜂起六社の約一・〇〇〇人が死亡、約五五〇人が投降した。

生き残り組は収容所生活を強いられるが、昭和六年四月二五日、収容所が「味方蕃」に襲撃され、二一六人が虐殺される。日本の警察は形式的に鎮圧のポーズをとったが、「味方蕃」の処分は行われなかった（第二霧社事件）。霧社事件の解明をライフワークとしている『霧と炎』の著者・郡楠昭さんが言う。

「蜂起したホーゴー社の頭目の娘、オビンタダオさんなどにインタビューしましたが、彼女は『今はもう日本に対する恨みは消えました。私たちの遅れた生活を改善してくれたという面もありますし』と語っています。もちろん今でも怨念を持つ人もいますが、台湾の人はおおむね親日的な感情を抱いていると言えるでしょう。しかし、それだけに、日本が台湾の少数民族に対して、インディアンの虐殺にも通じるような蛮行を行ったことを忘れるわけにはいきません」

霧社の住民だった日本人とその子孫がメンバーの、「霧社会」という組織がある。事件当事者の孫の一人は、「日本側の植民地支配に非があるのはもちろんだが、当事者は事件には触れたがらず、少数民族にひどい目にあわされたという被害者意識をどうしても捨てきれないでいた」と語る。「霧社会」は、事件後七〇年近い今、活動もとどこおりがちだ。

▲日本軍に協力した「味方蕃」は、戦闘や偵察だけでなく、運搬などの雑役にも従事した。写真は、偵察中のパーラン社の人々。11月3日撮影

女たちの肖像

どん底生活でも暗さがない 林芙美子の向日的生き方で『放浪記』が五〇万部に！

稲葉真弓

「私は宿命的に放浪者である。私は古里を持たない」。みずからの生のありようを、冒頭の一部にこう記した林芙美子（二六）の『放浪記』（改造社刊）が、五〇万部のベストセラーになったのはこの年のこと。『放浪記』は、自分の一八歳の頃から二五歳頃までのことを虚実取り混ぜて書き綴ったものだが、カフェーの女給、セルロイド工場の女工、株屋の店員、夜店の商人などさまざまな職業を転々とし、どん底生活にありながらも少しも暗さがない。職を失っても「こんなに私はまだ青春があるのです。情熱があるんですよお月さん！」とみずからを叱咤激励する若い女のひたむきで向日的な生き方が、大不況下の窮乏生活にあえぐ人々の共感を呼んだ。

芙美子はみずからを放浪者と呼んだが、その両親もまた放浪者だった。彼女は、明治三六年、山口県下関市で父・宮田麻太郎、母・林キクの間に私生児として生まれた。ともに行商人だった二人は、芙美子が七歳の頃に別れるが、新しく義父となった沢井喜三郎もまたテキ屋だった。芙美子は母と義父に連れられ、関西から九州一帯を行商に歩き、〝木賃宿〟から各地の小学校にかよったという。

尾道に落ち着いたのは大正五年（一三歳）のことで、尾道高等女学校に抜群の成績で入学。一八歳の時にはすでに詩や童話を地元の新聞に発表していた。

本格的に文学を志すのは昭和元年のことだが、この間、彼女の私生活はめまぐるしく変化している。尾道から何度か上京し、同郷の大学生や、知り合った俳優や詩人と同棲、これを肥やしに辻潤などアナーキストの詩人たちと交遊を持ち、文学的雰囲気に親しんでいった。元年暮れ、画学生の手塚緑敏と結婚、『清貧の書』を書き始めた。この頃、生活は浴衣を売るほど困窮し、毎日、赤い海水着で暮らしていた。改造社の編集者が原稿依頼に訪ねた時も海水着で応対し、相手をどぎまぎさせた話は有名である。『放浪記』により作家の道を歩み出した彼女は、六年に「東京朝日新聞」で「浅春譜」を連載、以後次々と作品を発表、二四年、『晩菊』で女流文学者賞を受賞した。しかし、乱作の過労に加え、〝成り上がり的態度〟が周囲の反発を招き、身辺は穏やかではなかった。そうした神経の不安が持病の心臓病を悪化させ、昭和二六年、心臓麻痺でこの世を去った。

▲作家・横光利一と対談する芙美子。

勝者・敗者

独特のロングストライド！第一回スケート選手権優勝 木谷徳雄の〝栄光と悲劇〟

阿部珠樹

朝日新聞社

▲木谷は4種目に出場し、500と1万は1位、1500と5000は2位だった。

戦前の日本のスポーツ界に、清新な空気を導き入れたのは、満州（中国東北部）、朝鮮、台湾などの出身者だった。中等学校野球での台湾のチームの活躍、ベルリン・オリンピックのマラソンで優勝した朝鮮出身の孫基禎。そしてスケート競技でも、戦前に一時代を築いたのは満州、朝鮮出身の選手たちだった。

この年、昭和五年の一月一二、一三日、青森県八戸市の長根リンクでは、第一回の氷上選手権スピードスケート競技大会が開かれた。スケートは明治時代に伝わり、軽井沢などではレクリエーションとして行われていたが、競技スポーツとしての形が整うのは大正に入ってから。そして昭和に入り、満州、朝鮮からの選手もかき集めて、ようやく第一回のスピードスケート選手権の開催にこぎ着けることができたのだ。

参加選手は全部で四一人。中でも注目を集めたのは、満州安東市出身の木谷徳雄だった。満州は寒さが厳しい。子供たちは凍りついた川や池を天然のリンクにして、スケートに親しむ。木谷も、そうして成長した一人だった。

木谷はこの年二一歳。その滑走は一歩ずつのストライドを思いきり長く伸ばす独特のもので、小刻みなピッチ滑走が主流の当時にあって断然目立った。木谷のロングストライドは、目立つだけでなく威力も抜群で、五〇〇メートルで四八秒の日本新記録をたたき出して優勝。総合優勝も、ものにする。

二年後には冬季オリンピックが予定されていた。木谷は一躍、有力なオリンピック候補になる。オリンピックの本番では活躍できなかったが、スケート陣初の代表として奮闘した木谷は、日本スケート界の礎を築いた一人と言える。

だが木谷の後半生は悲しかった。昭和一九年、召集され、終戦と同時にソ連に抑留、ついに解放されることなく、昭和二二年、シベリアの収容所で没した。満州に生まれ、スポーツ界に鮮やかな痕跡を残し、戦争の波に呑みこまれた木谷の生涯は、昭和の運命を象徴しているようだ

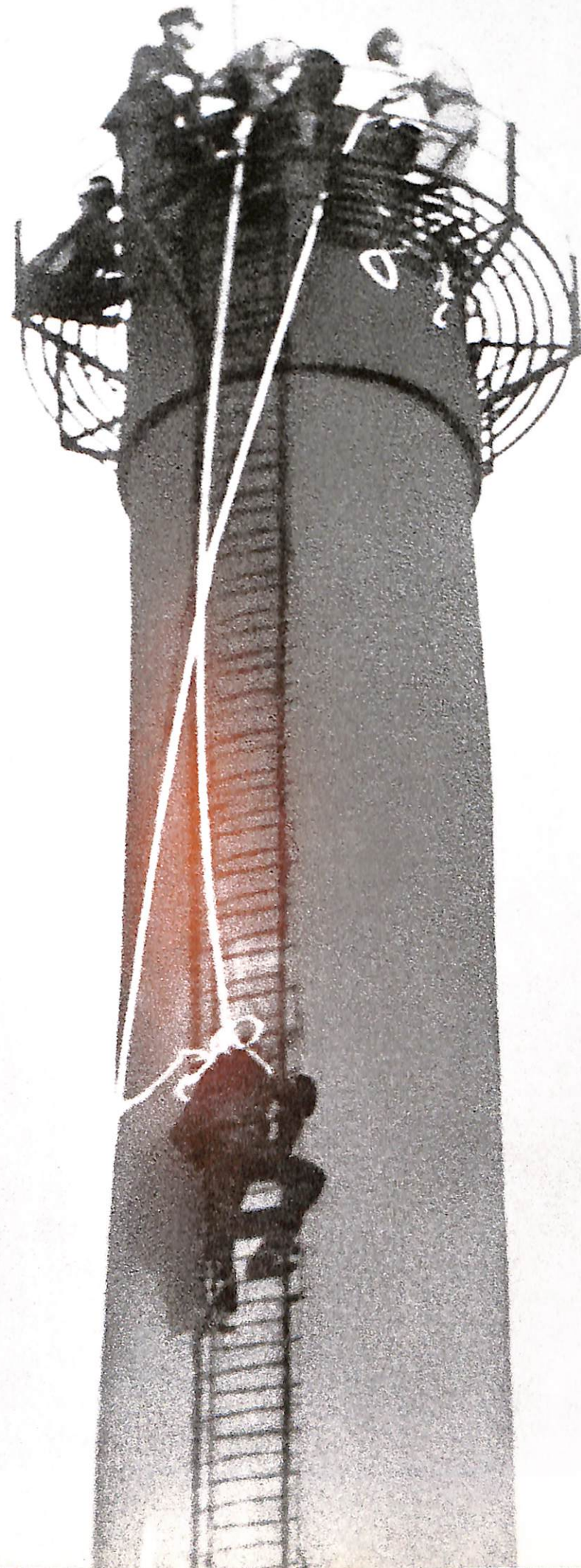
ニュース・ファイル

1930

フォト＋日録で再現する365日

金解禁による不況の中、大都市の大衆化は一層進行した。大阪のカフェーが銀座に進出、浅草ではエノケンや踊り子らが、エロ・グロ・ナンセンスを売りものに大当たりをとった。一方、統帥権干犯問題は「軟弱外交」に怒る右翼を刺激、浜口首相襲撃事件を引き起こした。

◀「煙突男」が出現（11月16日）スト中の富士瓦斯紡績川崎工場で、構内の高さ約39メートルの煙突に労農党系活動家・田辺潔(28)が登り、赤旗を振って演説。130時間、煙攻めに耐え、会社側の譲歩を引き出した。

共同通信社

朝日新聞社

▶大型帆船「日本丸」進水（1月27日）商船学校教育用として、文部省が姉妹船「海王丸」とともに建造。乗組員56人、実習生120人、「海の貴婦人」と称され、昭和59年まで活躍した。

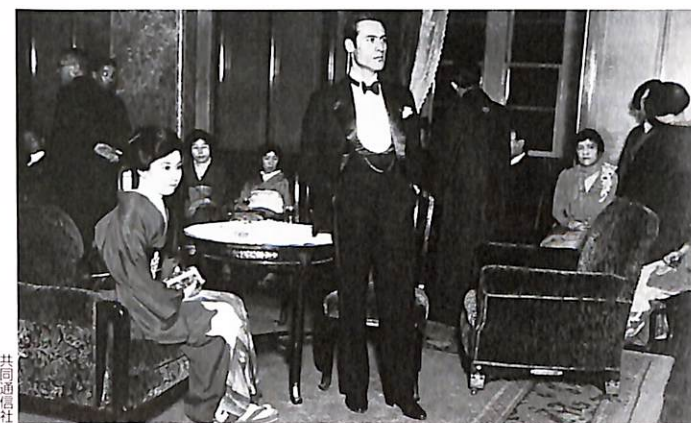
◀▶金解禁を実施（1月11日）大正6年以来の金輸出禁止が解け、金本位制になった。この日、日銀に兌換券と金貨の交換を求める人が殺到（写真上）。また、推進者・井上準之助蔵相は、大臣官邸で決意の揮毫（左下）。未曾有の大不況の扉は開かれた。

共同通信社

▼お札に聖徳太子が初登場（1月11日）金輸出解禁とともに発行された100円の兌換券。「気分一新」の願いと、高い人気から、藤原鎌足に代わって聖徳太子が初めて選ばれた。

朝日新聞社

◀日本GM争議が長期化（1月7日）前年12月、解雇された従業員280人が、復職を求めストライキ。争議団はこの日から、資金獲得のため、たわしなどの雑貨を売り歩いた。2月、解雇手当などの支給を条件に解決した。

▼ロンドン海軍軍縮会議、始まる（1月21日）日・英・米・仏・伊が出席。補助艦の制限が議題で、「対米7割」の日本は、6.97割で妥協、4月22日調印した。写真は演説する全権・若槻礼次郎。

毎日新聞社

共同通信社

▲「世紀の恋」成就（1月17日）2児を残し人気オペラ歌手・藤原義江（31）に走った中上川あき（32）が、ようやく思いをとげた。写真は披露宴。二人は、昭和9年、歌劇団を結成、22年後の昭和27年、離婚した。

昭和5年1月

1（水）●大阪の近松座を改装した文楽座が開場。
●鉄道省、全線でメートル法を実施。

2（木）●明治神宮の初詣で客が二日間で六〇万人突破。

3（金）●米から郵船「コレア丸」が横浜に入港。積み荷は金解禁を見こした鉄類・ゴム・雑貨など。

4（土）●日本昼夜銀行、俸給者に無担保貸出を開始。

5（日）●ソ連共産党、農業集団化の強化を決定。

6（月）●ロンドン銀相場が有史以来の暴落、上海市場は休止。日本の対中国輸出は大幅に縮小。

7（火）●早大生六人、穂高・槍ケ岳をスキーで縦走。

8（水）●大型客船「秩父丸」、試運転成功（3月竣工）。

9（木）●前年の対中貿易は出超一億円に後退と大蔵省。

10（金）●文部省、中学受験の競争緩和と「実務」修得のため、児童に実業学校入学を勧奨と通牒。

11（土）●金輸出解禁を実施、金本位制に復帰。
●新百円札を発行。肖像は初めて聖徳太子に。

12（日）●第一回全日本氷上選手権大会を開催。

13（月）●全国の有権者数は一二九四万人と内務省発表。

14（火）●埼玉県八和田村で『大日本史』二四三巻発見。
●閣議、国立公園調査会の設置を決定。

15（水）●マリアナ諸島の住民が、委任統治国の日本に土地を奪われたと、国際司法裁判所に提訴。

16（木）●京城（ソウル）で反日学生デモ。四六八人検挙。

17（金）●海軍横須賀鎮守府、少年航空兵の募集を開始（6月1日、採用検査実施し七九人を採用）。

18（土）●大相撲人気復活。千秋楽が一八年ぶりに満員。

19（日）●東京帝大生の学費は月平均四九円と学生課。
●名古屋市、人口が一〇〇万一八三八人で、京都、横浜抜き第三位と発表（10月10日祝賀会）。

20（月）●鐘紡社長・武藤山治退職。退職金三〇〇万円。

21（火）●ロンドン海軍軍縮会議、開会（〜4月22日）。

22（水）●内務省、総選挙立候補の地方官は退職と決定。

23（木）●三井高広、リンカーン車で東京―大阪間の走行試験を実施。二一時間二九分。

24（金）●浜口首相ら、選挙運動用のトーキー撮影行う。

25（土）●第一回朝日賞受賞式。坪内逍遙、前田青邨ら。

26（日）●インド国民会議派、「独立の誓約」を採択。第二次非暴力・反英抵抗運動を開始。

27（月）●文部省航海練習所の練習船「日本丸」、進水。

28（火）●百貨店の競争激しく土地買収を競うと新聞に。

29（水）●大阪市営地下鉄第一期線の起工式を挙行。

30（木）●東京の地代調停で地代半減・敷金撤回の判決。

31（金）●大審院、神戸市電気局汚職事件で、中元・歳暮も官吏には瀆職（収賄）罪適用の新判例。

共同通信社

朝日新聞社

▲**民政党大勝利(2月20日)** 2回目の普選で、衆院多数党だった政友会が凋落。議席数174となり民政党の273を大きく下回った。写真は、金解禁などの経済政策が支持されたと喜ぶ、民政党・浜口雄幸首相。

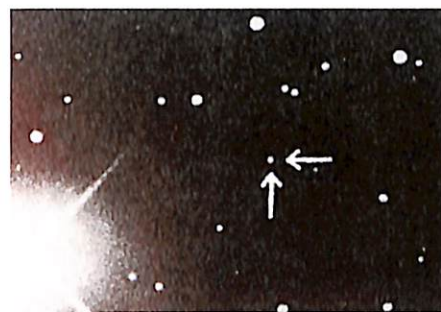
▼**ガソリン動車、登場(2月1日)** 収入減に悩む鉄道省が、電車より動力は小さいが製作費・運転経費が安いため、小区間に採用。この日、大垣―美濃赤坂間を初運転した。日本車輌製で34人乗り。

交通博物館提供

▲**大山郁夫が初当選(2月20日)** 無産各党は2議席減の5議席。河上肇らは落選、片山哲、西尾末広らが当選した。労農党委員長・大山(49)は東京の激戦区を勝ち抜き、支持者の祝福を受けた。

▼**ソ連で宗教弾圧(2月)** 偶像崇拝を禁じる共産党政権のもと、教会破壊が横行、ロシア正教は壊滅的打撃を受けた。ローマ法王は全世界に向け抗議を呼びかけた。写真は、教会からイコンなどを運び出す兵士たち。

朝日新聞社

◀**山階芳麿、小笠原の鳥類収集(2月17日)** 夫人(右)とともにこの日、帰京。山階(29)は皇族・山階宮の次男。東大動物学科を卒業後、本格的に鳥類研究を始め、標本収集にあたった。昭和7年に標本館(現・山階鳥類研究所)を建設した。

▲**冥王星発見(2月18日)** 米・ローエル天文台勤務のトンボーが、口径33センチの天体写真機で撮影。双子座δ(デルタ)星のそばに、光度17等の太陽系9番目の惑星を捕捉した。3月13日、冥王星(プルート)と命名された。

昭和5年2月

1(土) ●馬島僴・奥むめおら、産児制限相談所を開設。
●東京で全国初の失業保険制度を実施。
●名古屋市営バス、運行開始(9月神戸市も)。

2(日) ●無審査の日本アンデパンダン展、上野で開催。

3(月) ●ベトナム共産党結成(9日対仏武装闘争開始)。
●東京の小学校卒業予定者三万五千余人の就職は、求人が激減し六割が未定、と新聞に。

4(火) ●高松宮宣仁と徳川喜久子の成婚の儀行われる。

5(水) ●ファーブル『昆虫記』(林達夫ほか訳)刊行開始。

6(木) ●藤森成吉原作「何が彼女をそうさせたか」封切。

7(金) ●米連邦準備銀行、公定歩合を四・〇㌫に引き下げ(5月三・〇、12月二・〇㌫まで下げる)。

8(土) ●「女中」の求人ふえ条件も贅沢化、と新聞に。

9(日) ●若槻全権の軍縮演説、英から初の国際中継。

10(月) ●シカゴで密造酒業者一五八人検挙。過去最高。

11(火) ●投票日を前に買収用に一円札への両替急増、日銀総裁が取締りを厳命、と新聞に。

12(水) ●共産党大阪地方委員会の党員五百余人、検挙。

13(木) ●首里の小学校で工事土砂崩落。児童七人死亡。

14(金) ●警視庁、市内のカフェー、バーの時間外営業取締り実施。この日まで六九一一店を摘発。

15(土) ●大日本紡績連合会、一七㌫の操業短縮を実施(6月二七、10月三四㌫に拡大)。
●静岡県伊東で群発地震始まる(温泉客激減)。

16(日) ●歌人・柳原白蓮、夫の衆院候補・宮崎竜介の選挙資金集めのため銀座の夜店で短冊即売会。

17(月) ●小田原近海にブリの大群。豊漁で相場下落。
●国内就職難で南洋渡航志願者が激増と新聞に。

18(火) ●米のローエル天文台、新惑星(冥王星)を発見。

19(水) ●第一艦隊「山城」の全乗員が赤痢保菌と判明。

20(木) ●第一七回総選挙。民政党が圧勝。
●林房雄、共産党に資金提供したとして検挙。
●綴方運動誌「北方教育」創刊。
●野呂栄太郎『日本資本主義発達史』を刊行。

21(金) ●総選挙の開票速報を初の臨時ニュースで放送。

22(土) ●㈱鹿島組(現・鹿島)設立(この年上野駅受注)。
●東京六大学野球連盟、中学選手争奪の弊害をのぞくため新人の一年間リーグ戦出場を禁止。

23(日) ●労働者共済機関の日出貯蓄銀行が解散。

24(月) ●日本共産党員大検挙(七月までに一五〇〇人)。

25(火) ●外国人招致委が初会合、観光客誘致を協議。

26(水) ●東洋モスリン争議団、会社側暴力団と乱闘。

27(木) ●内務省、失業対策調査機関の設置を決定。

28(金) ●警視庁、新庁舎高塔を撤去する設計変更決定。

朝日新聞社

◀**町田農相、銀行へ協力要請(3月)** 大手銀行の首脳が集まり、大不況にある蚕糸業界への融資を承諾した。左から三井・池田、町田、三菱・串田、第一・佐々木、台銀・島田、安田・森、川崎第百・星埜。

毎日新聞社

◀**バード少将が帰還(3月11日)** 前年の11月、酷寒の中、史上初の南極点飛行に成功。「シティ・オブ・ニューヨーク号」で米国へ戻る途中、ニュージーランドに寄港、健在ぶりを内外に示した。中央がバード(41)。

▶**浅草大にぎわい(3月)** 前月6日に常盤座で封切られた「何が彼女をそうさせたか」が、5週続映のロングラン。また、エノケンら喜劇人が笑いとエロを振りまいた。

◀**東京劇場、完成(3月27日)** 松竹が東京・築地に建設。6階建て、スペイン様式で電動式回り舞台、ラジオ放送室なども設置、客席は1~4階に1898席。29日には尾上梅幸らの「翁三番叟」で開幕した。

▼**震災援助の答礼使節、渡米(3月18日)** 東京・横浜の復興への尽力に感謝するため、時事新報社が才色兼備の女性5人を派遣。写真は4月、フィラデルフィア市庁で。

共同通信社

共同通信社

◀**共産党・和歌浦事件(3月10日)** 特高が「武装共産党」の和歌山・和歌浦のアジトを急襲、党員3人検挙。幹部の田中清玄と佐野博(25)は前日に逃走した。写真は乱闘現場と武器(左)。

昭和5年3月

1(土) ●元大本教徒の谷口雅春、生長の家を開教。

2(日) ●魯迅ら、上海で左翼作家連盟を結成。

3(月) ●生糸相場が暴落、大正五年以来の安値を記録(7月10日、明治29年以来の安値)。

4(火) ●東京・銀座の町名変更。三三町を「銀座」に統一。

5(水) ●膝下九ﾁｾﾝまで伸びたロングスカートが流行の先端、曲がった脚を隠せて人気、と新聞に。

6(木) ●鉛含む有毒化粧品を四年後全廃と中央衛生会。

7(金) ●帝都復興祭での取締り決定。芸者行列・男装・女装などを禁止(22日天皇奉迎の「万歳」解禁)。

8(土) ●京都で宗教大博覧会開催。
●政府、糸価安定融資補償法の発動を声明。

9(日) ●満鉄の鞍山製鉄所第三高炉、火入れ。

10(月) ●朝鮮の鎮海で「乃木大将」上映中、フィルムから発火、日本人小学生ら一〇七人が焼死。

11(火) ●選挙制導入など朝鮮自治権拡張案を閣議決定。

12(水) ●日華関税協定仮調印。中国の関税自主権承認。
●ガンジー、「塩の行進」を開始(5月逮捕)。
●ロンドン軍縮会議、米最終案を提示。

13(木) ●川端康成・横光利一ら、プロレタリア文学に対抗し新興芸術派倶楽部を結成。

14(金) ●溝口健二監督の部分トーキー「ふるさと」封切。
●「読売新聞」、釣り欄新設(20日、競馬欄も)。

15(土) ●横浜の山下公園、開園。大震災の瓦礫で造成。
●東京市内の電話加入数が一〇万台を超える。

16(日) ●長崎県高島炭鉱でガス爆発。二八人死傷。

17(月) ●地方無産党が戦線統一。協議会議長に堺利彦。

18(火) ●閣議、国産奨励・輸出増進の方針を決定。

19(水) ●徳島市役所から出火。市会議事堂も全焼。

20(木) ●浜松高工と早大、各方式でテレビ公開実験。

21(金) ●横浜駅、駅弁の売り子に若い女性を採用。

22(土) ●各官庁で年五〇〇〇万円分の国産品使用決定。

23(日) ●東京・日比谷に初の自動式交通信号機設置。

24(月) ●帝都復興祭が始まる(4月23日横浜復興祭)。

25(火) ●二月卸売物価指数は大正一〇年来最低と日銀。

26(水) ●東京から脱出する家出人激増。生活苦の五〇歳代中心にこの月二〇〇〇人を超える。

27(木) ●松竹の東京劇場が竣工。客席一八九八。

28(金) ●東京の自動車運転試験志願者が一日平均五〇〇人とふえ、運転手の大量失業も、と新聞に。

29(土) ●樹木乱伐での氾濫河川に国庫補助と内務省。

30(日) ●前年の労働争議参加七万八〇〇〇人と新聞に。

31(月) ●全国的な小学校教員の初任給引き下げの動きに、文部省が「慎重なる配慮」を通牒。

▲中山岩太が1等賞(4月15日) 第1回国際広告写真コンクールで、応募作1600点の中から選ばれた。足袋の裏に福助人形を配した斬新さが評価された。中山(34)は神戸で新興写真運動を進めていた。

朝日新聞社

▲鐘紡、初のスト(4月10日) 優良な大企業も不況で4割の減給を発表。自慢の温情主義も破綻、全国8工場で争議になった。写真は大阪・淀川工場の寄宿舎から争議に参加する女子工員たち。

▶ローマで日本美術展(4月26日) 横山大観、川合玉堂らの作品178点を展示、床の間や日本間に飾るなど新味を出した。写真は30日、観覧に訪れたイタリア皇帝。

▼「ブリヂストン」タイヤ誕生(4月9日) 足袋の底にゴムを貼りつけた、「アサヒ地下足袋」で成功した石橋正二郎が、自動車産業の興隆に目をつけ、巨費を投じて国産化に着手した。この日、試作に成功し、翌年、ブリヂストンタイヤ(株)を設立した。

朝日新聞社

▲川崎市に工場が続々進出(4月) 大正初期から浅野総一郎らが、海岸の埋め立てを進め、工場を誘致。日本鋼管、富士重機、浅野セメントなどが工場を建設、一大工場地帯となった。写真は、なお進む埋め立て工事。

◀素人ダンサー審査(4月17日) 日本一のダンスホールを誇る宝塚会館が、「玄人お断り」を掲げて募集。男性客の相手をする仕事にもかかわらず、ダンスホール人気と不況を反映し、176人が面接にやって来た。

朝日新聞社

ブリヂストン提供

昭和5年4月

1(火) ●閣議、軍縮条約の米最終案受け入れ決定。
●上野駅地下に東洋初の地下商店街開店。
●山と渓谷社創業(5月雑誌「山と渓谷」創刊)。
2(水) ●若松―戸畑間の渡し船が、定員オーバーで沈没。祭礼帰りの子ども多数含む七二人死亡。
3(木) ●東京駅などで切符自動発売機の使用開始。
●前年の交通事故の死亡者は二〇五人と警視庁。
4(金) ●インド、綿布関税の引き上げ実施(日本に打撃)。
5(土) ●鐘紡、「温情主義」を捨て四割減給を発表。
6(日) ●日本初のポロ競技大会、千葉県習志野で開催。
7(月) ●上野動物園から「春の朝小鳥行進曲」を中継。
8(火) ●全国小学校の馘首教員が八〇〇〇人に達する。
9(水) ●石橋正二郎、純国産タイヤの試作に成功。
●東京の三人世帯で月収四五円以下の要救護世帯は、四万八千余と「細民」調査結果。
10(木) ●鐘紡の大阪・淀川工場でスト突入(全工場に波及。11日株式取引所休会。6月争議団敗北)。
11(金) ●日本初の女子体育運動大会開催。三万人参加。
12(土) ●早川雪洲、八年ぶりにハリウッドから帰国。
13(日) ●東京・板橋で地域ぐるみで養育金をめあてにした貰い子殺しが発覚。四一人を殺害。
14(月) ●警視庁、美観そこねる看板取締り強化を決定。
15(火) ●金沢放送局が開局。第一次全国放送網完成。
16(水) ●陸軍、所沢で第一回飛行競技会を開催。
17(木) ●中国遼東省、大豆以外の食糧対日輸出を禁止。
18(金) ●三年の出稼ぎ九〇万人、一位新潟、と新聞に。
19(土) ●愛知県選出代議士・小林錡、検挙二〇〇〇人の全国最大の選挙違反で岡崎刑務所に収監。
20(日) ●東京市電で一万五〇〇〇人が全面スト。市は運転に青年団員二〇〇〇人動員(25日、妥結)。
●南武鉄道、立川―川崎間全通。立川で祝賀会。
21(月) ●末次軍令部次長、軍縮条約案は統帥権干犯で反対と表明。条約受け入れの海軍省と対立。
22(火) ●ロンドン海軍軍縮条約に調印。
23(水) ●六代目尾上菊五郎、日本俳優学校を開校。
24(木) ●鉄道省、外国人客招致のため国際観光局開設。
25(金) ●政友会の犬養毅と鳩山一郎、軍縮条約は統帥権干犯と、衆院で政府を攻撃。
●日本郵船の大型貨客船「氷川丸」、竣工。
26(土) ●ローマで日本美術展開幕。横山大観ら出品。
27(日) ●婦選獲得同盟、第一回全日本婦選大会を開催。
28(月) ●日本学生航空連盟、発足。
29(火) ●早慶対抗ボートレース、二五年ぶりに開催。
30(水) ●鹿島沖で座礁の貨物船に海軍機初の食料投下。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲世界初のスチュワーデス(5月15日) 米・ボーイング社が、美人より緊急手当ができる乗務員をと、看護婦出身の8人を採用。乗客14人を相手にした。

◀熊本・郡築村の小作争議激化(5月25日) 大正後期に始まった争いが再燃。組合側の小作料減免要求に、地主側が玄米などを差し押さえ、事態は悪化した。

熊本日日新聞社

証言・あの日この日
田中清玄(23)

2月5日(水) 〈自分としてはもう親子の縁を切って、革命運動をやるつもりでしたので、二年近く母には会っていませんでした。/二月五日は薄ら寒い嫌な感じのする日でした。夜になって和歌浦のアジトに帰る途中、/突然暗闇の中から、母の顔が浮かび出たんです。常々、母は私に、「お前が家門の名誉を傷つけたら、お前を改心させるため、自分は腹を切る」と言っていた。それをすぐ思い出して「あっ、やったな。母は腹を切ったな」って、その瞬間、そう思いました〉(田中清玄『田中清玄自伝』)

田中は、この頃、たび重なる大検挙で壊滅的な打撃を受けていた共産党の組織を再建し、書記長に就任。そして過激な武装闘争を指導する。しかしこの日、田中の母は家から共産主義者が出たことを恥じ、〈自分は死をもって諫める〉という遺書を残し自害した。(山崎行太郎)

日本水産提供

▲遠洋漁業に乗り出す(5月) 福岡県戸畑市の共同漁業が、漁船4隻に急速冷凍装置を設置。鮮度保持が可能になったため、漁場を豪州や南米にまで拡大した。

▶第9回極東大会開く(5月24日) 明治神宮競技場で「友邦」、日本・フィリピン・中国・インド4ヵ国が陸上、水泳など8種目を競い、日本が圧勝、天皇賜杯を受けた。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲第1回健康優良児の表彰(5月5日) 東京朝日新聞社が、全国の小学6年生を対象に実施。体格、学力などを審査。30人の優良児、男女一人ずつの日本一を決めた。写真は、表彰される健康優良児。

昭和5年5月

1(木) ●第一一回メーデー。川崎で竹槍武装デモ。
●大日本麦酒(現・アサヒビール、サッポロビール)、食欲増進・栄養剤「エビオス」を発売。
2(金) ●樺太のニシン漁船、翌朝にかけ暴風雨で転覆相次ぎ、死者・行方不明二〇二人。
3(土) ●社民党の片山哲、衆院で軍縮の不徹底を批判。
4(日) ●東京で伊豆の地震鎮静と温泉宣伝ビラを配布。
5(月) ●朝日新聞社、第一回日本一健康優良児を表彰。
6(火) ●大阪城天守閣再建工事の地鎮祭を執行。
7(水) ●建築業組合員四〇〇〇人、失業防止大会開催。
8(木) ●警視庁、前月の強盗事件五一件のうち三四件が短刀使用のため、短刀の取締り強化を通牒。
9(金) ●大阪で警察電話線切断した電線泥棒を逮捕。
10(土) ●衆議院、婦人公民権法案を初めて可決(13日、貴族院で審議未了、廃案)。
11(日) ●磯部海軍少佐製作のグライダー、初公式滑空。
12(月) ●早慶戦の入場券申し込みにはがき二三万枚。
13(火) ●湯浅伸銅所争議に労働争議調停法を初適用。
14(水) ●四月の就職率は二八%で低下続くと内務省。
15(木) ●ボーイング社、女性による機内サービス開始。
16(金) ●鉄道省、増収ねらい列車内の広告を始める。
17(土) ●英、パレスチナへのユダヤ人移住制限令施行。
18(日) ●東京・日本橋で交通事故防止に路上キャッチボールの取締り。一四〇人を検挙し罰金二円。
19(月) ●東京市、知識階級失業者の臨時雇い登録開始。
20(火) ●山田盛太郎・平野義太郎・三木清ら共産党シンパとして逮捕(7月山田・平野、東京帝大辞職)。
●海軍軍令部参謀・草刈英治、軍縮条約に反対し東海道線の列車内で割腹自殺。
21(水) ●新十円札発行。肖像は和気清麻呂のまま。
22(木) ●政府、失対事業の起工条件を全国的に緩和。
23(金) ●横綱常ノ花、本場所途中で突然引退届を提出。
24(土) ●中国・徐州で国民党蔣介石軍と反蔣介石軍が交戦(中原戦争。25日、蔣軍敗退)。
25(日) ●慈恵医大が航空医学研究室を開設、と新聞に。
26(月) ●二七〇職業紹介所を動員し全国一斉求人開拓。
●東京交通労組デモに警官が催涙ガスを初使用。
27(火) ●日大生、大学の営利行為に反対し全学盟休。
28(水) ●東京府、欠食児童は二一六八人と発表。
29(木) ●星製薬、四一〇人解雇でスト(6月組合敗北)。
30(金) ●中国・間島(延吉)で朝鮮独立の反日武装蜂起。共産党員ら六十余人殺害(間島五・三〇事件)。
31(土) ●プロレタリア映画同盟、「隅田川」など上映。
●大阪のカフェー・美人座が東京に進出、開店。

6月

◀高松宮夫妻、ロンドンへ(6月27日)ガーター勲章答礼使として英国入り。2月4日に結婚、新婚旅行も兼ね、欧州各国を訪問した。この日は市長官邸で午餐会。

▲▼国産愛用運動始まる(6月3日)政府が通達。国内産業の活性化による、貿易赤字解消がねらい。写真上は、愛知県発行の優良国産品マーク。下は、百貨店を視察する浜口首相。

毎日新聞社

▼横浜に「便利屋」登場(6月)荷物運び、掃除、走りづかいなどなんでもやる外国人専門のサービス業。山下町近くに事務所を開設し、「ハンデーマン」と名乗った。

朝日新聞社

▲警官が射撃練習(6月11日)東京・大森の射的場で講習会が開かれた。大正12年、初めて各署に約3丁配付。その後、要人警護のため次第にふえ、技術向上が急がれていた。

◀米大統領、史上最高の関税認める(6月17日)不況下の国内産業保護のための法案に署名。各国も関税を上げて報復、世界貿易は大不振になった。写真は法案を審議する上院。

PPS

▶再建中の大阪城天守閣(6月)関一市長の大礼記念に「大阪の象徴がほしい」のひとことが契機。5月6日に着工、建設費45万円は市民の募金だった。

朝日新聞社

昭和5年6月

1(日)●日本放送協会技術研究所、設立。
2(月)●東京で欠食児童へのパンの無料配給が始まる。
3(火)●閣議、歳入激減で物件費一割削減を決定。
●新渡戸稲造・田川大吉郎ら、世界宗教平和会議日本委員会を結成。
4(水)●インドのイスラム連盟、反英運動参加を決定。
5(木)●東京・深川で三町会の住民大会、入浴料五銭を三銭にするよう決議。市と警視庁に陳情。
6(金)●同潤会初の女子独身者用アパート、大塚女子アパートメントが新築披露される。
7(土)●放火多発で警視庁が保険契約者の調査を通牒。
8(日)●比政府、日本人移民増加に排斥の徹底を指示。
9(月)●関西資本家二四団体が労働組合法反対を協定。
10(火)●海軍軍令部長・加藤寛治、軍縮条約に反対し天皇に単独辞表提出(帷幄上奏事件)。
11(水)●中卒の就職率二三・四、大卒九・二%と内務省。
12(木)●高文行政科試験に初の女性を受理、と新聞に。
13(金)●岸和田紡績争議、スト四一日で組合が敗北。
14(土)●大日本花菖蒲研究会が東京で発足。
15(日)●京都で初の反戦影絵映画「煙突屋ペロー」上映。
16(月)●陸軍、校長の学校教練の合否判定参加を拒否。
17(火)●米大統領、輸入関税の大幅引き上げ法に署名(二五カ国が報復関税を課し、保護貿易台頭)。
18(水)●大蔵省から予算削減を求められ、陸軍は五〇〇万円、海軍は三五〇万円の節減を決定。
19(木)●陸地測量部の修正調査で、富士山は三七七六・三メートル、従来より二メートル低くなった、と新聞に。
20(金)●株式市場が二五年来の安値。額面割れ続出。
21(土)●中国国民政府、張学良を陸海軍副指令に任命。
22(日)●津村順天堂(現・ツムラ)、入浴剤「バスクリン」を発売。「ジャスミンの香り」、五〇銭。
23(月)●松竹、俳優の二割減給と観覧料値下げを決定。
24(火)●東京市、ボーナス資金四〇〇万円を借り入れ。
●警視庁、五〇銭タクシー五〇件を認可。
25(水)●野球ブームで鎌倉八幡宮チーム結成と新聞に。
26(木)●日本蓄音機、自動停止装置つき電蓄を発売。
27(金)●銀価暴落で日本の中国人留学生が生活難のため、一月以来五〇〇人が帰国、と新聞に。
●日本放送協会、ラジオ聴取数七〇万件、一四七万円の黒字と総会報告。
28(土)●長野県中洲村、県税と家屋税の滞納を決定。
29(日)●大阪商船、ニューヨーク急航線を開設。
30(月)●千葉地裁、大審院判例をくつがえし、鉄橋上の通行人を轢殺した国鉄機関士に無罪判決。

「現場」を歩く 言問橋

関東大震災後、真っ先に復興された橋が見たもうひとつの〝惨事〟

山本徹美

▲隅田川13橋のひとつ、言問橋は、台東区花川戸2丁目・浅草7丁目と墨田区向島1～2丁目を結ぶ。橋の両岸には、花の名所、隅田公園がある。 奥村健太郎

昭和五年三月二四日、帝都復興祭が開催された。午前九時四五分、天皇(二八)は関東大震災で壊滅後、ようやく復興なった市街を巡幸。その順路は、二重橋前広場を起点に芝、神田、浅草を経由、隅田川へ。この河川には新たに六橋が架かっていたが、そのうち上流から言問橋、蔵前橋、清洲橋、永代橋と縫うように渡って宮城に戻るというもの。総延長三二キロで、午後二時三〇分終了。天皇がこれほど長時間にわたり広範囲を視察したのは初めてで、その感慨は同二六日の帝都復興完成式典での勅語にも表れている。

「帝都復興ノ事業ハ官民共同ノ努力ニ頼リ歳月ノ短キ克ク此ノ偉績ヲ効セリ朕深く之ヲ懌フ(後略)」

関東大震災直後、大正一二年九月一九日に、各大臣などにより帝都復興審議会を結成。同二七日、内閣総理大臣直属の帝都復興院(後藤新平総裁=六六)を新設、同年一二月、第四七臨時議会で六年間の総事業費として五億七千四百八十余万円の予算案を提出。最終的には、横浜市分を含めて約八億円がついやされた。

「復興事業中も最も早く着手したのは橋梁工事であって、東京に於いては国施工の橋梁一一八橋中大正十三年末迄に既に本橋工事に着手させるもの一九橋」(『帝都復興事業』昭和六年三月)

隅田川によって断たれたライフラインが、真っ先に復旧されたのである。

世紀を超えて橋は残る

平成一〇年四月、言問橋を訪ねてみた。浅草側にある隅田公園(これも復興事業の産物)では桜が満開で、宴たけなわ。

橋のたもとに慰霊碑があるのに気づく。碑の素材は言問橋の縁石で、「あゝ東京大空襲朋よやすらかに」と、ある。酒の入ったコップを供え、合掌した老婦人が、

「空襲でもこの橋は落ちなくてね、焼け出された人たちがここへ逃げのびて来たんだけど、そこを猛火が襲った。川縁はびっしりと死体で埋まって……」

と、声を詰まらせた。『東京都戦災誌』によると、昭和二〇年三月一〇日の空襲による台東地区(下谷・浅草)の犠牲者は、一万一八二五人。その何割かは、この隅田公園に仮埋葬された。

橋桁を観察すると、錆びた銅板に「昭和貳年 復興局」の文字が読めた。ほかに塗装記録表なるものがあって、一九九四年三月に塗装したことが表示してあった。建設省調査課に問い合わせてみる

「言問橋は昭和三年二月完成、東京大空襲でも落橋せず、現在にいたっています。全長二三七・七メートル、幅員二二メートル。軍艦などに使われた高張力マンガン鋼を用いた『ゲルバー桁』橋です。塗装さえ完全であれば半永久的に使用可能です」

橋名は在原業平の和歌「名にし負はばいざ事問はむ宮こ鳥 わが思ふ人はありやなしやと」にちなむ。世紀を超えて残る橋に過去の「思い」を問いかける人も多いはず。実に味わい深い名だと思う

▲帝都復興祭初日の市内巡幸で、言問橋を渡り隅田公園で下車した昭和天皇。向島側から対岸浅草方面を展望した。 国際フォト 写真情報

ベストセラー
井伏鱒二と川端康成の異色作、相次いで刊行！

◀『夜ふけと梅の花』(新潮社、50銭)
日本近代文学館提供(4点とも)

この年四月に刊行された井伏鱒二の短編集『夜ふけと梅の花』には、彼の処女作である「山椒魚」が収録されていた。「山椒魚は悲しんだ。彼は彼の棲家である岩屋から外へ出てみようとしたのであるが、頭が出口につかへて外に出ることができなかつたのである」という書き出しで始まるこの作品は、辛辣な皮肉とユーモアたっぷりの味わい深い短編として、大正一二年の雑誌〈「世紀」〉発表時から評判を呼んでいた。「山椒魚」のほかには、「朽助のゐる谷間」「ジョセフと女子大学生」「シグレ島叙景」などが収録されている。

川端康成が同時代の都市風景を描いた小説『浅草紅団』も、この年一二月に刊行された。表題になっている浅草紅団とは、ムシロの小屋掛けでもいいから、一度は奇想天外な見世物を出して世間をあっと言わせたいと念じている、不良少年・少女たちの集団。舞台は浅草。大震災の傷痕は癒えていないが、新しい時代の到来を告げる地下鉄が走り出したばかりの盛り場だ。章タイトルだけをあげても、「ピアノ娘、隅田公園、昆虫館、水族館、銀猫梅公、飛行船と十二階、大正大地震、少女倶楽部」といった名詞が並び、当時の世相・風俗を具体的に記したガイドブックのような側面を持つ、異色の小説だった。

また詩歌の方では、三好達治の処女詩集『測量船』が一二月に刊行されている。散文形であるにもかかわらず、リズム感あふれる作品は新鮮だった。

「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。／次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。」という有名な詩〈「雪」〉もこの詩集に収録された。

▲『浅草紅団』(先進社、1円50銭)

▲『浅草紅団』につけられた太田三郎の挿絵。

◀『測量船』(第一書房、1円)

スターと名場面
大江美智子の小姓役も魅力 ご存知「旗本退屈男」登場！

市川右太衛門がその名を高めた「旗本退屈男」シリーズの第一作(古海卓二監督)が、この年公開されている。旗本退屈男こと早乙女主水之介が、窮境から救った男を大悪党と見破り、一計を案じてその一派をおびき寄せ、壊滅させるという物語。脇役として美しい小姓も登場するが、これが直前まで宝塚のスターだった大江美智子(後に女剣劇で名を馳せた)。動きがシャープなわりに妖しさもあり、この作品で大いに人気を呼んだ。

またプロレタリア作家・藤森成吉原作の「何が彼女をそうさせたか」(鈴木重吉監督)がヒットした。生活苦による父親の自殺に始まるヒロインの波乱万丈の人生は、みずからの貧しさと、富めるものの傲慢さや偽善を際立たせた。

洋画ではレマルク原作の「西部戦線異状なし」が大ヒットした。芝居の方でも築地小劇場が興奮のるつぼと化したほどの人気作品の映画化で、第一次世界大戦に志願して従軍したドイツの学生たちが主役。その学生たちが次々に倒れていくシーンがリアルな、反戦映画だった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「麗人」(栗島すみ子)／「ふるさと」(藤原義江)／「アジアの嵐」(ワレリイ・インキジノフ)／「アスファルト」(ベティ・アマン)

マツダ映画社提供

▲「旗本退屈男」シリーズで、悪党をこらしめ人気を集めた市川右太衛門(左)。

川喜多記念映画文化財団提供

▲将来を嘱望されながら、教師の演説に煽られ軍隊に志願した、「西部戦線異状なし」の主人公、リュー・エアーズ(左)。

◀「何が彼女をそうさせたか」で、曲馬団に売られたりもする、悲劇のヒロインを演じた高津慶子(右)。

マツダ映画社提供

モノ語り'30
現在でも通用するレベルに到達！「バスクリン」「リボンハイトリ」、サーモスタットつきの「丸山型電気コタツ」

▶**とうとう出た三輪自動車の決定版**　イギリス製のオートバイ用エンジンを、リヤカー式三輪車に搭載するタイプの三輪自動車が多かった時代に、発動機製造(現・ダイハツ工業)が製造・発売した国産のエンジンつき三輪自動車が「ダイハツ1号車HA型」だ。これ以降、三輪自動車は、改良に改良を重ね人気商品となっていく。

▶**今の電気コタツと変わらない性能**　松下電器製作所(現・松下電器産業)がこの年発売した「丸山型電気コタツ」は、一定温度になると電気の流れを断つサーモスタットつきで、性能も従来よりアップし、ほぼ現在のものと同じレベルに達していた。価格も2円50銭と、一般的な価格の半値で、いっきょに8万台生産された。

◀**鉱石ラジオの時代が終わった**　真空管が開発され普及したことによって生まれた、交流式受信機「並4球ラジオ」。家庭の電灯線が利用できるという、今では当たり前になった便利さが受けて、たちまち全国に普及。ラジオと言えばこのタイプという時代を迎えた。
NHK放送博物館／乙咩雅一

▼**本格的入浴剤の登場**　津村順天堂(現・ツムラ)のヒット商品である婦人薬「中将湯」は、素材となる生薬から入浴剤の「浴用中将湯」を生み出したが、この入浴剤には、夏場だと温まりすぎるという欠点があった。これを改良してこの年売り出したのが「バスクリン」で、銭湯などの需要を中心に順調に売り上げを伸ばし、ロングセラーとなった。ブリキ缶入りで150グラム50銭だった。

▲**自分でも現像できるカメラ**　この年、小型で取り扱いの簡単な初心者向きボックス型カメラ「トウゴーカメラ」が、東郷堂から発売された。紙製のホルダーに入った専用のシートフィルムを使って撮影した後、自分で現像できるのが特徴で、赤色の現像液を使用するため、暗室でなくても現像できた。価格も1円から3円と手頃でよく売れ、写真の普及に大きく貢献した。本体は木製。縦位置用と横位置用の、二つの反射ファインダーがついている。画面サイズは約3×4.5センチで、1枚ずつ差し替えて撮影した。
日本カメラ博物館／大畑俊男

▶**ハエ取り紙がヒット**　この年、カモ井のハイトリ紙製造所(現・カモ井加工紙)から「リボンハイトリ」が発売され、大ヒットした。すでにシート状の〝カモ井のハイトリ紙〟の効果は広く知られていたので、リボン状のテープを天井から吊るすこのタイプも大いに歓迎された。紙テープの両面に粘着剤がつけられており、空中を飛ぶハエがこれに止まっては捕獲された。このタイプは現在もおもに業務用として、殺虫剤の使えない調理場や牛舎、豚舎などで広く使われている。

バスクリンと人気画家

「バスクリン」の容器に描かれた婦人像は、当時の人気挿絵画家・高畠華宵の作品。大胆にして繊細なこの絵は、「バスクリン」という商品名とともに消費者に強い印象を与えた。広告に用いられている絵も、もちろん同じ高畠華宵の作品である。

津村順天堂は、創業者の方針で、創業時発売の「中将湯」の時から、パッケージはもちろん宣伝広告にも、このようなハイレベルのビジュアル効果を重視していたのである。

◀「東亜薬報」に掲載された、発売三周年記念の広告。昭和八年のもの。

金子みすゞ(二六)

五一二編の詩作を残して娘を取り戻すために自死

昭和五年三月一〇日は、童謡詩人の金子みすゞがみずからの生命を断った日である。多くの人の心をとらえ、全国の若い詩人や読者の憧れの星であった金子みすゞの、それは突然の死だった。

その日の朝、いつもならとっくに起きているはずのみすゞがいつまでも起きてこない。不安をおぼえ、声をかけながら襖を開けた母親・ミチの目に映ったのは、睡眠薬・カルモチンの瓶と遺書だった。

医者が来て、あれこれと手をつくしたが甲斐なく、五一二編の詩を残して、みすゞは二六歳の短い一生を終えた。

死後、金子みすゞの名は時を経るにつれて人々の記憶から遠ざかり、その詩もひっそりと、みすゞを愛する人たちの間で読み継がれるだけのものになった。

金子みすゞは明治三六年四月一一日、山口県大津郡仙崎村(現・長門市)に生まれた。本名はテル。彼女が二歳の時、父の庄之助が亡くなり、母のミチは大津郡でたった一軒の書店・金子文英堂を始める。ミチの妹、すなわち、テルの叔母・フジの嫁ぎ先である下関の上山文英堂書店の縁だった。テルはこのただ一軒の書店の、本好きな少女として成長していった。

テルが生まれ育ったこの地域一帯は、浄土宗のさかんな土地柄である。対岸の青海島には「鯨墓」があり、国指定の史跡になっているが、捕鯨のさかんだった時代、捕れた鯨の腹の中で犠牲になった子鯨を供養するため建てられたもので、現在でも毎年、鯨法会がいとなまれる。

こうした生命に対する視点が、彼女の詩の骨格となった。叔母・フジの病死で母が後妻に入り、大正一二年、テルも下関に移り住むことになったが、金子みすゞのペンネームで、テルが雑誌に童謡を投稿し始めたのはこの頃からだった。

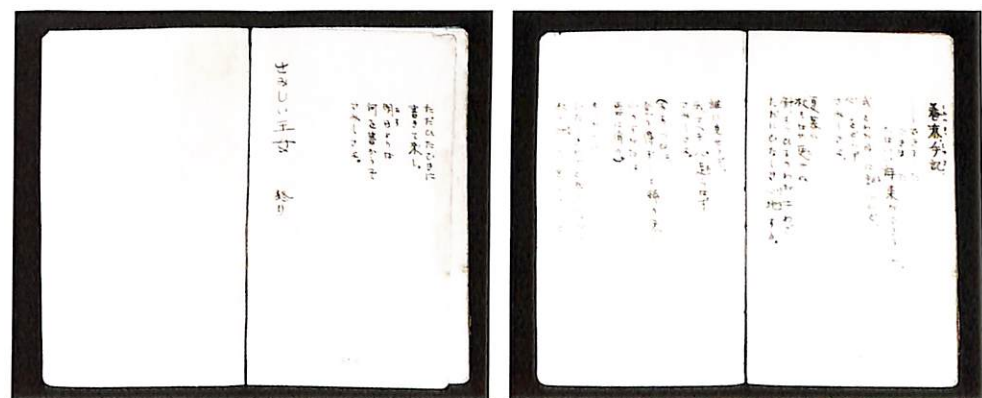
「朝焼小焼だ　大漁だ　大羽鰮の　大漁だ。
浜は祭の　ようだけど　海のなかでは　何万の　鰮のとむらい　するだろう。」

これは、代表作のひとつ「大漁」という詩である。みすゞの死から三六年後の昭和四一年、この詩に激しい衝撃を受けた一人の学生がいた。当時、早稲田大学一年の、童話作家・矢崎節夫氏である。矢崎氏はその時の衝撃を、こう語る。

「大学にかよう都電の中で『日本童謡集』の文庫本を読んでいたんですが、たった一編だけ載ったみすゞのこの詩を読んだとたん、ほかのすべての童謡が消えてしまったのです。人間も動物も、すべてのものが同じレベルにある視点。こういう視点で書かれたものに出会ったのは初めてのことでした」

この詩人の詩をもっと読みたい。それが矢崎氏の、みすゞ発掘の旅の動機となり、再びみすゞに光があたることになる。

大正一五年二月、みすゞは気の進まぬままに結婚。一一月に長女・ふさえを生んだが、結婚生活は不幸だった。病気に加え、夫に詩作も禁じられ、昭和五年二月に離婚。しかし、ふさえをどうしても引き取ると言い張る夫の嫌がらせに悩み、これが自死のきっかけとなった。みずからの命を賭した抵抗。それは自分を捨てて生きる、みすゞの生の表現だったのだろうか。その答えがみすゞの詩にある。なお、彼女の全作品は、現在『金子みすゞ全集』全三巻(JULA出版局)としてまとめられている。

▲弟・上山雅輔氏の手元に遺されていた、3冊の遺稿集。　JULA出版局提供(4点とも)

◀遺稿集「さみしい王女」の巻末手記(自筆)。縦一四・九センチ、横八・九センチのポケットダイアリーの紙質見本に書かれたもの。

▲死の前日の3月9日、下関市内の写真館で撮影されたポートレート。その夜、みすゞは、ふさえと風呂に入り童謡を歌い、家族そろって桜餅を食べて明るくすごしたという。

決定的瞬間

「勝利か、さもなくば死を」ウルグアイvs.アルゼンチン 第一回W杯で国交断絶に！

▲後半、ウルグアイは鉄壁の守りを見せ、攻めては三選手が相次いでゴールを決め逆転優勝した。

ウルグアイが四点目のゴールを決めた時、九万人を収容していたモンテビデオのセンテナリオ・スタジアムは異様とも思える歓声に包まれた。〝南米の覇者〟アルゼンチンと〝奇跡のチーム〟ウルグアイとの激突は、このシュートで決着がついた。人口二〇〇万人、南米の小さな国が、世界でナンバーワンになった一瞬である。

第一回ワールドカップは、一九三〇年七月一三日からウルグアイの首都・モンテビデオで始まった。参加国は南北アメリカ大陸から九ヵ国、ヨーロッパから四ヵ国の合計一三ヵ国。ヨーロッパ勢が少なかったのは、片道一三日間もの船旅を敬遠したチームが多かったからだ。しかし試合は盛り上がり、主催国・ウルグアイは建国一〇〇周年の記念行事として赤字覚悟で開催したにもかかわらず、全試合で五五万人の観衆を集め、二五万ドルの収益をあげるという結果になった。

決勝戦は七月三〇日に行われた。対戦は予想どおりウルグアイと宿敵・アルゼンチンである。一九二七年、二八年の南米選手権での対戦ではアルゼンチンが勝利し、一九二八年のアムステルダム五輪ではともに決勝に残り、ウルグアイが勝利。アルゼンチンはこの雪辱をはたすべく、執念を燃やしていた。

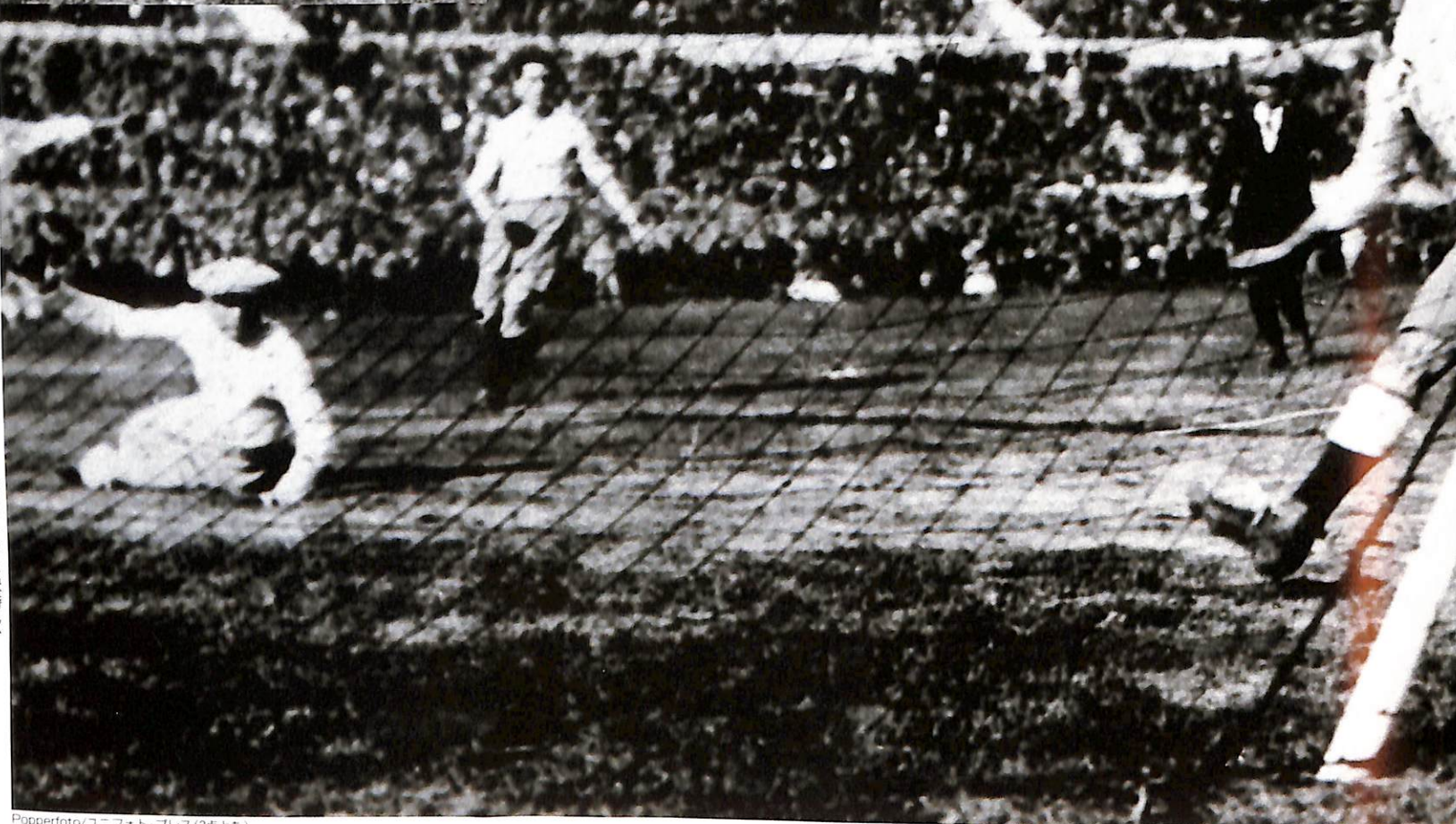
決勝戦前日の夜、アルゼンチンではラプラタ川対岸のモンテビデオに向かう船に乗ろうとファンが殺到。超満員の船では「勝利か、さもなくば死を」と叫び、興奮した乗客が満員の船から振り落とされて溺死者が出るという騒ぎだった。試合会場であるセンテナリオ・スタジアム（一〇万人収容）では、入場者を九万人に制限。早朝六時から騎馬警官が警戒を始め、アルゼンチンから来た一万人のファンは、警備陣に守られながらスタジアムに入るというものものしさだった。

試合は前半一二分、ウルグアイのトラド選手が先制ゴールを決める。しかし、アルゼンチンは二〇分にペウセエ、三七分にはギレルモ、スタビレの二人でゴールを決め、一対二と逆転。スタビレはこの大会屈指のストライカーだったが、この時の得点はオフサイドだとウルグアイは抗議し、観衆は主審に激しい野次を飛ばして試合が中断した。後半に入るとウルグアイはセア、イリアルテ、カストロの三選手が相次いでゴールを決め、四対二と逆転したのである。

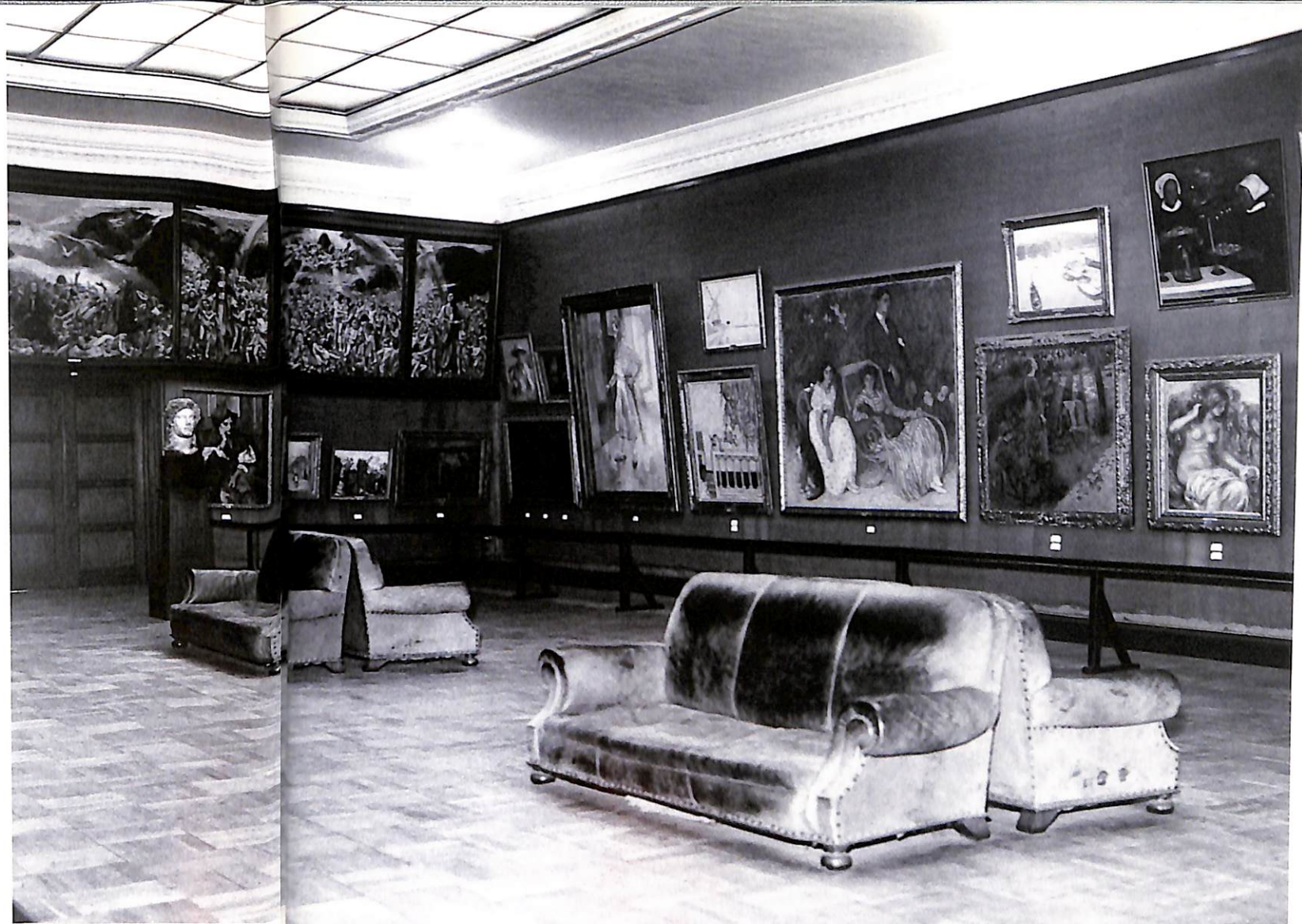
勝利したウルグアイでは、歓喜の嵐が渦巻いた。花火が打ち上げられ、人々は街に繰り出して徹夜で祝い、チームには国家最高勲章が贈られ、「翌日を国民の祝日とする」などが決められた。

一方、敗れたアルゼンチンの新聞は「ウルグアイのラフ・プレーと不公平な審判に敗れた」と書き立て、ウルグアイ領事館の前では数千人が抗議の声を上げ、投石、乱入、さらには警官隊が発砲するという騒ぎが起きた。これを知ったウルグアイ国民も「勝利の喜びに水をさされた」と激怒、ついに両国は国交断絶にいたる。ワールドカップの試合は、サポーター、市民、マスコミを巻きこんだ〝模擬戦争〟であると言われる。まさにこの言葉どおり、第一回ワールドカップは、チーム対チームの枠を超えた「国家対国家」の勝利への執念を見せつけた、熱い戦いの一八日間であった。

▲南アメリカのスペイン系諸国の中では最も小さな国家・ウルグアイの、ワールドカップ優勝を記念して作られた封筒。

▲オリンピックに引き続き、第一回ワールドカップでもアルゼンチンに快勝し、抱き合って喜ぶウルグアイの代表選手。

Popperfoto/ユニフォト・プレス（3点とも）

美の出会い

倉敷の町に“文化の種”をまく大原孫三郎と児島虎次郎の夢「大原美術館」がオープン！

▲創設時のコレクションは、近代の西洋絵画が中心で、古代エジプト美術・ペルシャ陶器・中国古美術も加えられていた。

人口三万人に満たない岡山県倉敷市に、西洋美術を展示する日本最初の美術館が開館した。昭和五年一一月五日のことである。建物は鉄筋コンクリート二階建て、延べ床面積五六五平方メートル。イオニア様式の円柱が立つギリシャ神殿をイメージした正面玄関の両脇には、ロダンの彫刻、「洗礼者ヨハネ」と「カレーの市民」の一部がおかれていた。地方の紡績会社を大企業にまで育て上げた実業家の大原孫三郎（五〇）と、その支援を受けて美術品の収集に意を注いだ画家の児島虎次郎（前年に死去）が夢見た、大原美術館がここに誕生したのである。

開館式には、岡山・香川両県知事のほか、画家の満谷国四郎ら一五〇人が招待され、その席で「中国民報」（現・「山陽新聞」）の元社長・原澄治により、大原孫三郎の設立趣意書が代読された。

「私がこのたび、小規模ながら美術館を建築いたしましたのは、昨年亡くなりました児島虎次郎君を記念するために、同君の作品および同君が生前渡欧のうえ、心血を注いで収集いたしました泰西画家の作品、並びに古代エジプトの古美術品を陳列するのが目的であります」

一階には、虎次郎の「朝鮮婦人」など一〇五点の遺作が展示され、二階には虎次郎の眼で選ばれ、苦心のすえに入手したマチスの「画家の娘」やモネの「睡蓮」など六一点が並べられた。また、二階の小部屋二室には、エジプトや中国などの古美術品一〇〇点ほどが陳列された。

現在の大原美術館の副館長である原道彦氏は、開館当時の様子について語ってくれた。

「ニューヨークの株の大暴落で始まった不況の最中だったため、美術館の設立には批判も強かったようです。開館式の当日、周辺で労働者のデモがあり、大原は岡山の別邸でそれを避けていました」

一般公開は一一月二五日からだったが、閑古鳥が鳴くありさまで、翌年三月までの入場者は三八〇〇人。その後の一〇年間でも、一日二〇～三〇人が訪れる程度だった。いろいろな事業を起こした大原だったが、周囲には日頃から「美術館が一番心配だ」ともらしていた。

「いろいろな批判の声にもかかわらず、孫三郎の『文化は早くから種をまかなくてはいけない』という思いから、あえて建設に踏み切ったのです。大変な決断だったと思います」と原氏は続ける。

▲“文化都市”倉敷の礎を築いた実業家・大原孫三郎。

▲この美術館があるため、倉敷は第2次世界大戦中の爆撃から逃れることができたと言われている。

◀ポール・ゴーギャン「かぐわしき大地」。一八九二年。油彩、九一×七三・五センチ。児島虎次郎が、孫三郎からストップがかかるまで買い続けようと、執念を燃やして集めた作品群のひとつ。大原美術館蔵（四点とも）

大原孫三郎は、明治一三年、岡山県窪屋郡倉敷村に、実業家の次男として生まれた。金持ちの放蕩息子を地でいっていた青年期、岡山孤児院長・石井十次に出会い、その交友を通して、「社会から得た財はすべて社会に返す」という強い信念を持つにいたった。彼は倉敷紡績の経営に積極的に取り組むかたわら、大原奨農会農業研究所（大正三年）、大原社会問題研究所（同八年）、倉敷労働科学研究所（同一〇年）、倉敷中央病院（同一二年）などを次々と設立していった。

また、多くの学生に奨学金を出して、学業援助も行った。その中に東京美術学校の学生だった児島虎次郎がいた。児島は明治三五年、大原孝四郎・孫三郎父子の面接を受け、画業の支援を約束されたのである。孫三郎二二歳、虎次郎二一歳の時であった。年齢の近い二人は互いに「大原さん」「児島さん」と呼び合い、信頼の絆で結ばれる生涯の友人となる。虎次郎は孫三郎に勧められ、明治四一年から五年間ヨーロッパに留学。日本の画学生に本物の洋画を見せたいと思った虎次郎は、大正八年からの再渡欧の際、モネやマチスを訪ね作品の収集を開始する。

大正一〇年に虎次郎が帰国すると、さっそく倉敷女子尋常高等小学校で、収集作品の展覧会が開かれ、各地から集まった人々で、会場は大入りになった。この情景を見た孫三郎は、虎次郎に収集のための渡欧を再び依頼する。翌一一年の渡欧では、ゴーギャンの「かぐわしき大地」、グレコの「受胎告知」などを収集。二度の渡欧で集めた絵画は一五〇点に達した。しかし、昭和四年三月、虎次郎は美術館の完成に立ち会うことなく、四七歳の生涯を閉じた。

その後も、孫三郎の志を継いだ大原総一郎により作品の収集は続けられ、美術館はさらに充実していく。現在では、年間六五万人を超す入場者があり、近・現代美術の殿堂として、訪れる人々を魅了し続けている。

20世紀博物館

紙の博物館 東京・北区

情報革命を起こし、便利な生活素材でもある紙の〝底力〟に脱帽！

桑原茂夫

江戸時代から桜で知られる、東京・王子の飛鳥山公園の一角に「紙の博物館」がある。平成一〇年三月に新装オープンしたばかりだが、もともとは線路をはさんだ向かい側にあった。王子製紙の工場跡地で、日本の〝洋紙発祥の地〟とされているところだ。現代の感覚だと、東京に製紙工場があったこと自体にわかには信じられないことだが、明治の文明開化期に、紙は近代社会の要となる素材と目されていたから、国家の中心エリアに紙の生産工場があっても不思議ではなかったのである。

▲中央は、木材をすりおろして砕木パルプを作る、比較的新しい機械。その左に見えるのが新聞紙用紙。ロールになっているが、この1本で長さ11キロもあり、4ページの新聞なら4万部も刷れる。 椎野充

▲紙は紀元2世紀初頭、中国で発明されたが、その頃の記録に基づいて復元した紙。世界を変えた大発明の面影がここにある。

紙は情報を蓄積したり伝達したりするのに絶好の素材だから、近代国家建設に欠かせなかったのはもちろんだが、時代をさかのぼっても事情は変わらない。館内のエントランスホールの壁に、大きな聖徳太子像がかかっているが、これは太子が日本における紙作りのカギを握っていたからだ。というのは大陸から製紙法が伝わってきたのが太子の時代で、太子はこれを時代の流れを変えるような重要な技術と見て、積極的に取り入れる方針を打ち出し、製紙を奨励したというのだ。

▲18世紀末に、とうとう開発された機械式の紙すき機。ここから、紙の生産量は飛躍的に伸びていくことになる。展示されているのは、2分の1縮尺の模型。

さて、展示室に入る。二階から四階までである展示室には、洋紙の製造工程などを具体的に示すコーナー、日本の製紙産業の歴史や世界の紙の歴史を楽しむコーナー、紙を素材とした美術工芸品のコーナーなどがある。普段、紙を意識する機会があまりないだけに、意外に思える事実、あるいは初めて知って驚かされる事実も少なくない。

たとえば、洋紙の大きさを表すA判とB判についてである。書類に多いA4判とか、雑誌に多いB5判という大きさには、慣れている方も多いだろうが、そのもとになっているA判とB判の大きさを知っている人は少ない。これが展示室の壁に記してあった。原寸大で示された図にA0判は一平方メートルと書いてある。縦・横の長さの比率を1対$\sqrt{2}$にして、面積が一平方メートルになるように裁断してあるのがA判（A0）の紙なのである。同じように一・五平方メートルの面積を持つのが、B判（B0）の紙だ。縦横比1対$\sqrt{2}$というのは、何回折っても、やはり縦横比1対$\sqrt{2}$の紙面が得られるということを意味している。これは本や雑誌の印刷には絶好の条件となる。A4判やB5判などの紙に刷らなくても、大きな紙に刷ってから適当な回数だけ折ればいいからだ。

▲日本で8世紀に作られた百万塔のひとつ（実物）と、その中に納められた〝陀羅尼（だらに）〟。この陀羅尼が、日本最古の印刷物のひとつ。

紙には、このような知恵がいっぱい詰まっている。そもそも紙は、植物繊維を水につけ、これをばらばらにしてから、すき上げ、乾燥させて作るという単純なもの。しかし、ここからがすごい。印刷技術とからみ合いながら、情報革命を繰り返し起こしたり、生活周辺を隙間なく埋める素材となってきた。まだまだ未来にどんな展開を見せるか予測するのもむずかしい——そんなことを感じさせる博物館なのだった。

▲紙以前の記録媒体が並べられている。パピルスやパーチメント（牛皮や羊皮）、粘土板などだが、紙の伝播以降、あっという間にとって代わられた。

●紙の博物館
東京都北区王子一—一—三
☎〇三—三九一六—二三二〇
JRなど王子駅下車、徒歩五〜一〇分
開館時間＝一〇時〜一七時
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

「まるで急流に乗る心地」「素敵——新時代の感覚」
最高時速95キロで東京—大阪間8時間20分
夢の超特急「つばめ」、発車！

▲7月3日に行われた「つばめ」の試運転では、松竹蒲田の女優・東栄子（左）と藤田房子（右）が同乗した。

▲昭和5年10月1日、大阪駅を出発する超特急「つばめ」。

超特急「つばめ」の出現は、第一次世界大戦後の大量輸送時代を迎えた日本にとって、画期的な出来事であった。アイディアと技術の粋を集め、平均時速六七・五キロで走るこの列車の運行は、鉄道の大衆化とスピード時代の幕開きを告げ、収入が落ちこんでいた鉄道省が危機を乗り切るうえでも、大きな役割をはたすことになった。

大卒初任給と同じだった東京—神戸一等往復運賃

昭和五年一〇月一日、東京駅のプラットホームは興奮の渦に包まれていた。いよいよ夢の超特急「つばめ」の出発である。列車の編成は荷物車、三等二両、食堂車、二等二両、最後に一等車（展望車は昭和六年九月から連結）であった。

この七両からなる「つばめ」の一等車

には元内閣総理大臣で伯爵の清浦奎吾（八〇）が、そして二等車には、「東京行進曲」で有名な流行歌手の佐藤千夜子（三二）が乗り、乗客は二四二人と、二等車をのぞき、ほぼ満席の状態だった。

午前九時、定刻のベルが響くと、機関車は汽笛を鳴らして発車した。

「つばめ」の走行は非常に快調であった。時刻表では横浜、国府津、名古屋、大垣、京都を経て、午後五時二〇分に大阪駅、午後六時に神戸駅に着く予定だ。それまでの特急「富士」「桜」に比べると所要時間が二時間二二分も短縮され、最高時速は九五キロ、平均速度が六七・五キロというスピードであった。

実は、この日「つばめ」が走り始める前に、二回の試運転が行われていた。一回目は昭和四年一二月四日、試乗した新聞記者の記事には、「まるで急流に乗る心地」「動揺試験のコップも泰然」（「東京日日新聞」）と記されている。

二回目は「つばめ」運行の三カ月前、昭和五年七月三日に行われた。この時は全国から試乗者を募集したが、なんと一万二〇〇〇人の応募があった。その中から三〇〇人が選ばれ、松竹蒲田のスター、東栄子と藤田房子も招待されていたが、東栄子は乗った感想を「素敵——新時代の感覚」と語っていた。

▲箱根越えでは、国府津駅に30秒間停車する間に補助機関車を連結、あわただしく発車する「つばめ」。 高田隆雄

事実、営業を開始した「つばめ」は、速度のわりに揺れも少なかった。疲労を防ぐために乗務員の交替をしたり、最大の難所である箱根越えでは、国府津駅停車中の三〇秒間で補助機関車を連結し、御殿場で役割を終えた補助機関車を走行中に自動的に切り離すなどして、時間の短縮をはかりながら、大阪まで八時間二〇分、神戸まで九時間という快挙をなしとげたのである。

列車に愛称（トレイン・ネーム）をつけたのも、日本では初めての試みであった。前年の昭和四年に発表された愛称名別得票数は、総数一万九〇九一票、一位は「富士」で一〇〇七票、二位「燕」↖

▲丹那トンネル開通記念の絵はがきに使用された、「つばめ」の食堂車内部の写真。 交通博物館提供

▲昭和10年、「つばめ」の展望車からハンカチを振る乗客。翌11年には、食堂車に冷房機が取り付けられた。 杵屋栄二

八八二票、三位「桜」八三四票であったが、「富士」「桜」は先発の東京—下関間を走っていた長距離特急に与えられ、スピードを象徴する「燕」が今回の東京—神戸間の超特急につけられたのである。

運賃は、片道で三等が六円三〇銭、二等はその二倍、一等は三倍だった。それに特急料金を加え、一等で東京—神戸間を往復すると、約五〇円かかる。大学卒の初任給が五〇円程度の時代としては割高だったが、乗客の大半を占めた東京—大阪間を往き来する社用族には、便利で乗り心地も上々と好評であった。

新技術とアイディアが鉄道省の危機を救う

超特急「つばめ」誕生の裏には、「運転の左甚五郎」の異名をとった鉄道省運輸局運転課長・結城弘毅（五一）の存在があった。

当時、国際標準軌間（一四三五ミリ）を採用していた欧米諸国では「一マイル（約一・六キロ）一分」という平均速度が目標になっていた。狭軌（一〇六七ミリ）の日本ではハンディキャップがある。そこで結城は「一キロ一分」、平均時速六〇キロを目標に掲げ、大阪鉄道局から転任してきた昭和五年の七月、「東京—大阪をノンストップで走り、今より三時間早く、八時間強で結んでみせる」と公言した。

それを実現するためにはさまざまな難関があったが、すでに狭軌用の機関車では世界最大級のC51形機関車があったことが幸いした。また、大正一四年七月には、全線の車両に自動連結器が取り付けられていた。ブレーキも手動から空気ブレーキに切り換えられ、短時間で安全に列車を停車させることができた。

東海道本線のレールをすべて五〇キロレール（一メートルで五〇キロの重量）に換えたことも、「つばめ」実現への布石となった。それまでの幹線レールは三七キロレールであったが、昭和三年、八幡製鉄所が五〇キロレールの生産を開始したことで、大型機関車が牽引する列車の高速化と走行の安定化が可能になった。

乗り心地の面でも改良が加えられた。高振動を吸収するためにさまざまなバネを使い、揺れを防ぐためにボギー台車を使用したことも新しいアイディアであった。このボギー台車の軸数を二軸から三軸にふやして、一等車や二等車、食堂車などに採用することになった。そのほかにも事故に備えるため車体は鋼製化され、自動信号機が全区間に取り付けられるなど、結城の率いるスタッフらによって「つばめ」誕生の条件が整えられ、「一キロ一分」の目標を上回る、平均時速六七・五キロで走る列車が登場したのである。

当時、鉄道省は最大のピンチを迎えていた。昭和四年一〇月のニューヨーク株式市場の暴落で始まった大恐慌の波は、日本にも押し寄せ、鉄道は旅客の落ちこみと貨物輸送の減少に直面していた。その窮余の一策として登場したのが「つばめ」であったが、その歴史的意義は大きかった。

「一、二等車に三等車を連結し、鉄道の大衆化をはかったことは画期的なことです。昭和三三年にビジネス特急『第一こだま』号が登場し東京—大阪間の日帰りが可能となり、『つばめ』はその二年後の三五年に役割を終えて、愛称だけは後の電車に引き継がれていきます。しかし、進んだ技術とアイディアこそが、スピードという時代の要請を実現し、危機を乗り切るうえで、大きな役割をはたしたという点を忘れてはいけません」

こう語るのは、鉄道事情に詳しい和光大学教授の原田勝正氏である。

▶昭和九年末、流線形に改造されたC53形43号が神戸—名古屋間で上り「つばめ」を牽引。

フォト＋日録で再現する365日

▶宝さがしに血眼（7月）震災後、銀座や日本橋の焦土を捨てたという、東京・芝浦の埋め立て地が早朝から穴だらけ。大半が失業者で、連日、百数十人が掘り返した。1日2円の稼ぎと言われ、所有者の鉄道省も黙認。

◀新手の宣伝（7月）ヒット・レコード連発の日本コロムビアが、前月からポータブル蓄音機の販売を開始。鎌倉・由比ケ浜で実演を兼ねた宣伝が、「先端的」と評判になった。

朝日新聞社

▼京都・三高が同盟休校（7月3日）学生の思想を監視する生徒主事の解職などを要求し、学生500人が正門を封鎖、校舎を占拠。9日、警官隊が突入、退学者26人を出し敗北した。

大阪商船三井船舶提供

▶貨物船、太平洋横断新記録（7月16日）大阪商船「畿内丸」が横浜港を出港、記録を10日も縮める25日間でニューヨーク着。不況克服への「急航線」となった。

▲マージャン取締り（7月10日）警視庁が新規開店禁止、夜12時までなどを通牒。ブームに乗って管下に937店と増加するばかりで、競争も激しく、あやしげな「麻雀ガール」の出現や、高額の賭博行為が問題となっていた。

朝日新聞社

▼柳宗悦（41）、米国から帰国（7月28日）前年、ハーバード大に招かれて仏教美術などを講義。翌年には、滅びつつある手仕事を紹介する雑誌「工芸」を創刊した。右は声楽家の兼子夫人（38）。

「三高八十年史」

昭和5年7月

1（火）●横浜の人力車組合、タクシーへ転業決め陳情。
●国産品選定委、優良純国産品一〇〇を選定。

2（水）●東京区裁判所、初めて麻雀賭博で七人を起訴（10日、警視庁、麻雀クラブの新規開店を禁止）。

3（木）●林芙美子『放浪記』、改造社から刊行。

4（金）●内務省、空路輸入植物増加で検査強化を通達。

5（土）●東京府、千百余万円の失業救済事業費を決定。
●東海道本線の食堂車に初めて女性給仕が試乗。
●緊縮財政一年で一八％の物価下落と日銀発表。

6（日）●中国・青州の日本人、内戦激化で全員が避難。

7（月）●横浜で初の夜間水上競技会を開催。

8（火）●茨城県葛城村で夜警の巡査が泥棒に入り逮捕。

9（水）●銀座のタクシー取締りで運転手一八〇人検挙。

10（木）●川崎造船製作の「KDA・5」戦闘機、水平速度時速三二〇キロの世界記録を樹立。

11（金）●長野県下諏訪町の製糸工場六九、一斉休業へ。

12（土）●福島県柿沢村の小作争議、小作料三割減獲得。

13（日）●サッカーの第一回ワールドカップ開幕。一三カ国が参加し地元のウルグアイが優勝。

14（月）●田中清玄ら共産党幹部、検挙。

15（火）●独社、ベルリン―南京の写真無線電送に成功。

16（水）●東京の夏はビル増加のため酷熱化、と新聞に。

17（木）●航空局、片岡文三郎のグライダー滞空二二秒を認定、証明書第一号を発行。

18（金）●北海道庁主唱により北海道アイヌ協会結成。

19（土）●東西銀行団、融資共同調査機関の設置を決定。

20（日）●朝鮮・咸鏡南道で森林組合結成反対の二千余人が警察署を襲撃。四〇人死傷。

21（月）●東京女子医専、貧民街に夏期無料診療所開設。

22（火）●警視庁、失業者に銀座などの露天営業を許可。

23（水）●海軍軍事参議会、軍縮後の拡充計画を承認。航空隊拡張・主力艦改装・小型潜水艦建造など。

24（木）●八都市で政府保有米五〇万石の入札払い下げ。

25（金）●社民党、電灯料値下期成同盟の組織化を決定。

26（土）●東京市、職員の新規採用中止を決定。

27（日）●日本の映画見物は、松竹キネマの調べで米国の一三分の一、一人年間二回、と新聞に。

28（月）●上半期の労働争議は一日平均四件と内務省。

29（火）●中国共産党、長沙ソビエト政府を樹立（30日からの列国の砲撃で、8月6日撤退）。

30（水）●福島県磐崎村の三井炭坑、温泉が湧出して坑内が水没したため廃坑と決定。
●米のNBC、テレビ送信実験局を設置。

31（木）●秋田県、小学校一〇〇校で俸給未払いと発表。

証言・あの日この日

加藤寛治（59）

3月27日（木）　〈午後三時首相官邸において浜口総理と会見す。岡田大将も同行し、米案に付き大いに反対意見を述ぶ。岡田大将もさすがに重大なる結果を警告せり。財部全権第二電来る。原田熊雄予の私邸に来訪し、軍令部主張の大勢非なるを告げ、予に再考を促す。予時既に遅し、もっての外と一蹴す〉（加藤寛治「加藤寛治日記」）

ロンドン軍縮会議が米国の提案を受け入れる形で妥結しそうになると、報告を受けた軍令部長・加藤寛治（海軍大将）は激怒。この日も浜口首相と会見、米国案を受け入れることは危険であると激しく抗議する。が、首相をはじめ政府の軍縮方針は変わらなかった。加藤は、以後も統帥権干犯問題まで持ち出して抗議を繰り返すが受け入れられず、結局、5月19日辞職。この時の対立が、以後の歴史に暗い影を落とすことになる。（山崎行太郎）

共同通信社

▲ペンキ職養成（8月21日）東京市が失業救済の一環として実施。16～40歳の男子を対象に11月28日まで、本所授産所で開講。日当40銭を支給した。

朝日新聞社

◀日本ラグビー、カナダ遠征（8月20日）初の代表チームを結成。「桜」のマークを胸に、監督以下27人が健闘。6勝1引き分けの成績をおさめ、10月帰国した。

宝塚歌劇団提供

▲宝塚「パリゼット」公演（8月1日）タップと山盛りのシャンソンをパリから持ち帰った白井鐵造（30）が演出。「パリそっくり」と言われた、華やかなレビューを展開。初めて「すみれの花咲く頃」が歌われた。

▼大阪の避暑地・生駒山（7月）大正3年の生駒トンネル開通、7年の日本初のケーブル設置で、手軽な行楽地として人気になり、夏はキャンプ場になった。写真は、夜の有料「娯楽場」。

毎日新聞社

▶「妻を友人に与える声明」（8月18日）谷崎潤一郎（44、右）が佐藤春夫（38、左）、妻・千代子と連名で、知人・友人に挨拶文を送付。佐藤が千代子と結婚することになった。

昭和5年8月

1（金）●宝塚歌劇、「パリゼット」を初演。主題歌は「すみれの花咲く頃」「おお宝塚」。
●世界の失業者一五〇〇万人と国際労働局発表。

2（土）●鉄道省、東海道本線に三等寝台車連結を決定。

3（日）●海軍航空隊、大島沖演習で廃艦「明石」を撃沈。

4（月）●文部省、反マルクス主義研究に補助金と決定。

5（火）●米・フーバー大統領、農業救済計画を発表。

6（水）●和歌山県下四〇劇場・映画館の一斉休業実施。

7（木）●失業俳優への生活費貸付に申し込みが殺到。
●独で国際学生陸上大会開幕。日本は総合二位。

8（金）●解放運動犠牲者救援会、非合法大会で国際赤色救援会（モップル）への加盟を決定。

9（土）●警視庁、産児制限・妊娠調節を標榜する売薬業者などの取締り実施。業者四人を摘発。

10（日）●三～五割の漁価下落で漁民生活困窮と新聞に。

11（月）●枢密院の軍縮条約審査委員決定。全員反対派。

12（火）●六月の失業率五・三三％、三八万人と内務省。

13（水）●内務省、親権者による児童虐待の調査を通牒。

14（木）●民政党有志、高級官吏減俸などを申し合わせ。

15（金）●「婦人公論」掲載の広津和郎の小説「女給」のモデル問題で、菊池寛が編集者に暴行。

16（土）●日本・オーストリア通商航海条約、調印。

17（日）●ラグビー日本代表、カナダ遠征に出発（初の代表チーム結成と海外遠征）。

18（月）●谷崎潤一郎夫人が離婚し、佐藤春夫と結婚するとの三者連名の挨拶状を知人に送付。

19（火）●閣議、農漁村救済で七〇〇〇万円の融資決定。

20（水）●浅間山爆発。登山者六人が溶岩に打たれ死亡。

21（木）●逓信省、東京―大阪間で写真電送の業務開始。

22（金）●宮内省、名古屋城を整理の方針と閣議に報告（12月11日、名古屋市に下賜）。

23（土）●安達内相、失業対策の民間新事業勧奨を通牒。

24（日）●美術界隆盛、二科展出品が前年の記録を破る。

25（月）●道府県農会長会議、不況の農村に都市失業者を受け入れる余地なしと決議し、農相に陳情。

26（火）●閣議、野党・政友会系の地方長官（県知事）の大幅更迭を「地方行政刷新」のためと承認。

27（水）●東京府荏原町長選で最高得票の賀川豊彦に、同町居住者ではないと町会議長が無効宣言。

28（木）●吉野作造ら一二六人、軍縮期成会を結成。

29（金）●国民防空協会設立。非常時の防護普及のため。

30（土）●吉原清治の「報知号」、独から東京到着（31日、米欧亜横断の東善作の「東京号」、立川帰着）。

31（日）●岩手県の困窮農家がふえ、四千余戸と新聞に。

ユニフォト・プレス

▲ナチス、第2党に躍進（9月14日）国会議員選挙で、143議席の社会民主党に迫る107議席を獲得。ドイツは恐慌の影響で社会不安が増大、ヒトラーの反共・社会主義的政策が受けた。

朝日新聞社

▶「人間砲弾」発射（9月29日）白煙とともに20メートルの高さまで打ち出される、ドイツ人の離れ業に観客はびっくり。20日から翌月31日まで開かれた、神戸海港博覧会の呼び物で、連日大入り満員だった。

共同通信社

▲震災記念堂が落成（9月1日）東京・本所の元陸軍被服廠跡地に完成。7回目の震災記念日のこの日、神式による落成式と仏式による法要が行われた。納骨堂には、約6万人の犠牲者が眠る。

朝日新聞社

▲東京・水上小学校が開校（9月5日）約1000人とされる水上生活者の児童のうち、500人の未就学児のため月島に建設。この日、40人が入学式、1ヵ月7円で全員が寄宿舎に入ることになった。

▲神戸の神港商、笑顔の帰国（9月25日）第7回選抜大会で松山商を破り初の2連覇。その報奨として渡米した12人が、横浜港に到着した。米国での戦績は1勝6敗だった。

▶人見絹枝、最後の活躍（9月6日）プラハの国際女子大会に、団長として参加。走り幅跳び優勝、槍投げ3位と奮戦。翌年、24歳で亡くなった。写真はプラハに着いた日本選手団。

昭和5年9月

1（月）●東京市、公設質屋で生業資金貸付開始。一世帯三〇〇円、期間四ヵ月、利率一・二五㌫。
2（火）●茨城県で螟虫退治デー。米損害年二〇〇〇万円。
3（水）●東海道を徒歩で帰郷の失業者やその家族が増加、藤沢・遊行寺が麦飯の接待、と新聞に。
4（木）●警視庁に初めて電送写真の家出人捜索願。
5（金）●水上生活者のため東京に水上尋常小学校開校。
6（土）●群馬県、不況のため小学校の修学旅行を中止。
7（日）●所得上位者は三井八郎右衛門の二八〇万円、岩崎久弥二四〇万円、「富豪は太る」と新聞に。
●秋田県払田柵遺跡で日本で二番目の木簡出土。
8（月）●人見絹枝、国際女子陸上の走り幅跳びに優勝。
9（火）●閣議、市町村長・吏員への初の叙勲を承認。
10（水）●拓務省、移住奨励のため関東州（中国・遼東半島）への運賃を本人・家族五割引きと告示。
11（木）●水の江滝子、浅草松竹座の「松竹オンパレード」に、初めて断髪にタキシードの男装で出演。
12（金）●浅間山噴火の降灰で草津・軽井沢の野菜全滅。
13（土）●行政刷新委、百二十余の委員会など整理決定。
14（日）●独総選挙。ナチス激増し第二党、共産も躍進。
15（月）●東京で国際統計会議、「日本人の短命」を論議。
16（火）●中国、上海税関に日本産繭の輸入禁止を訓令。
17（水）●日本蘭領インド（インドネシア）協会、創立。会長・近衛文麿。文化交流の促進。
18（木）●M・シュバリエ主演「ラヴ・パレード」封切。
19（金）●二〇時間労働強制し死者十数人を出した蟹工船「エトロフ丸」、函館に入港。首謀者検挙。
20（土）●神戸で海港博覧会開幕（入場者一三七万人）。
21（日）●我孫子と取手を結ぶ東日本一の大利根橋竣工。
22（月）●国産奨励甲府博覧会開幕。二七道府県が出品。
23（火）●国民政府支持の張学良軍、汪兆銘らの反蔣介石派の拠点・北平（北京）を占領。
24（水）●大阪市、全国に先駆け電灯料を大幅値下げ。
25（木）●選挙権年齢を二〇歳に引き下げと内務省決定。
26（金）●第一回理美容師試験を実施。二六五五人受験し理容師一八㌫、美容師一九㌫が合格。
27（土）●ソ連映画「生ける屍」封切。
●青森県で子ども二五人以上を買い、置屋などに売っていた男二人を東京・早稲田署が引致。
28（日）●東京・赤羽でパラチフス発生。共同井戸で感染。
29（月）●農林省、生糸補償期間延長、金利補塡も決定。
30（火）●大日本バスケットボール協会、設立。
●福岡県の三池炭鉱、女子の坑内労働全廃（12月27日、囚人による採炭も全廃）。

天理大学附属天理図書館提供

▲天理図書館、完成（10月18日）天理教教会が、奈良県丹波市町に図書館建築の粋を集め建築、落成式を挙行した（写真）。1284平方メートル、本館の中心部に書庫を配し、防音防湿につとめた。

毎日新聞社

◀日露戦争25周年記念（10月19日）高島屋大阪長堀店では、戦争終結のこの月に国防展を開催。店頭に戦艦「陸奥」の主砲の模型を飾って、人々を驚かせた。

朝日新聞社

▲小林多喜二原作「不在地主」を上演（10月4日）村山知義らの東京左翼劇場が、市村座で興行。小作人と労働者の共闘を描く物語が評判になったが、警視庁は期間短縮を命じた。

共同通信社

▶新装口つきタバコ「みのり」製造（10月1日）デザインは公募入選の女性作家のもの。黄と緑のツートンカラーの緑地に、豊かな実りを描いた。写真は、翌月1日発売を前にした大阪専売局の工場。

朝日新聞社

◀昭和初の国勢調査、実施（10月1日）植民地を含め約1260万世帯に調査票を配布。本土人口は6445万5人。失業者の調査が目玉で、約32万人だった。写真は、大阪・南新地の芸妓たちの調査。

朝日新聞社

▶タクシーあふれる（9月）失業者の増勢すさまじく、内務省の調べでは給料生活者の失業率が約5パーセント。写真は「円タク」も今は昔、「半円タク」と値下げしても、客がいない大阪のタクシー。

昭和5年10月

1（水）●第三回国勢調査。本土人口六四四五万五人。
●東京―神戸間に超特急「つばめ」の運転開始。
2（木）●米・シアトルの日系人による太陽球団が来日。
3（金）●大豊作の発表で米価大暴落。全国の米穀市場が立会停止。生糸暴落とともに農村恐慌深刻。
4（土）●郡山合同銀行が休業（年末まで一二地銀休業）。
5（日）●世界最大の英飛行船「R101号」、訪印途上で爆発。航空相ら四八人が即死。
6（月）●東京市、初の外国人接客ボーイ養成講座開講。
7（火）●岐阜県農会、マツタケ四五〇㌔を北米に輸出。
8（水）●「四・一六事件」の控訴審開始。非公開に。
9（木）●精工舎の服部金太郎、㈶服部報公会を設立。
10（金）●TWA航空設立。米国に二大航空会社誕生。
11（土）●観衆の整理困難で、早慶戦の切符前売り中止（21日早大生、切符配分が不明瞭と全学盟休）。
12（日）●不況で中等諸学校の入学志願者激減と新聞に。
13（月）●東京女子歯専の全学生、教授留任を求め盟休。
14（火）●新潟県農会、一俵五円で投げ売りする農家も出る状況に、政府に米の取引停止を要請。
15（水）●利根川改修工事（明治33年着工）完成。
16（木）●東京の自動車運転手は四年間で六倍の六万人。
17（金）●市川右太衛門主演「旗本退屈男」第一作封切。
18（土）●天理図書館落成式。図書館建設のモデルに。
●作家・今東光、浅草・伝法院大僧正により得度。
19（日）●警視庁、阿片吸飲させた中国人三八人検挙。
20（月）●第一六師団（京都）、除隊兵用の求人放送。
●国際観光局、日本紹介のため山口蓬春、伊東深水ら画家一〇人を十和田湖写生旅行に招待。
21（火）●全協系労働者・京大生ら、「四・一六事件」の被告奪還をめざし京都・中京刑務所を襲撃。
22（水）●石川県の朱鷺生息地、眉丈山一帯を農林省が一〇年間の禁猟地区に指定、と新聞に。
23（木）●労農党、「戦闘的解党」主張した河上肇ら除名。
24（金）●洋モス争議団千余人、街頭で警官隊と衝突。
25（土）●質屋一千余店が困窮者に衣類一万点を配給。
26（日）●「読売新聞」日曜版の付録「読売サンデー漫画」創刊。麻生豊、下川凹天らが寄稿。
27（月）●台湾の霧社で高山族住民が反日武装蜂起。日本人一三四人を殺害（霧社事件）。
28（火）●東京の中学入試に筆記試験復活と決定。
29（水）●東京六大学野球で法大が加盟一四年で初優勝。
30（木）●米映画「西部戦線異状なし」封切。…七〇〇㍍（全体の七分の…）が検閲で…
31（金）●閣議、中国の呼称を「支那」から「中華民国」…

▶**北伊豆地震起きる（11月26日）** 2月頃からの伊東の群発地震に続き、この日、午前4時、M7.3の強震。各地で山崩れ、崖崩れが多発し、死者272人、家屋全壊2165戸に達する大惨事となった。

朝日新聞社

◀**中止・検束の連続（11月2日）** 無産政党中間派が合同、麻生久を議長とする全国大衆党が、東京、大阪で大会を開催した。臨席の警察官の「発言中止」が36回、検束者30人などで混乱、討議はほとんどできず、大阪では途中で解散させられた。

毎日新聞社

▶**「10セントセール」（11月）** 資生堂は、売り上げ不振のチェーン店に対し、米国製雑貨による「セール」を提案した。「高級」をやめ、「10銭均一」で売り上げを伸ばす百貨店にヒントを得たもの。

朝日新聞社

▼**岡山・広島で特別大演習（11月15日）** 天皇が行幸、模擬戦を統監部から望見した。前日、浜口首相はこの演習に向かう途次、東京駅で襲撃された。写真は、大本営がおかれた後楽園表門の旗行列。

山陽新聞社

◀**第1回柔道選士権を開催（11月15日）** 東京・明治神宮外苑で全国から58人が参加、年齢別の8階級で優勝が争われた。写真は佐村・三船両七段による模範演技。

▼**長島愛生園が開園（11月20日）** 初の国立療養所として、瀬戸内海にある周囲16キロの小島・長島に設立。定員400人、全国のハンセン病患者を入園させ、隔離策がとられた。園長・光田健輔。

長島愛生園提供

昭和5年11月

1（土）●浅草でエノケン・シミキン（清水金太郎）・淡谷のり子ら、プペ・ダンサントを旗揚げ。
2（日）●エチオピアのハイレ・セラシエ皇帝、戴冠式。
3（月）●東京—長春間の航空郵便開設。
4（火）●仙台中心に三市町村で第二師団が防空演習。
●ハワイ議会選挙で初めて日系市民が当選。
5（水）●倉敷市に大原美術館、開館。
6（木）●海軍飛行隊、霞ケ浦—名古屋の夜間飛行成功。
7（金）●東京市が出稼ぎ防止のパンフレット「東京へ来たら餓死します」を配布、と新聞に。
8（土）●女医の西村庚子、女性初の医学博士となる。
9（日）●第一回全日本器械体操選手権大会、開催。
10（月）●銀座の失業対策露店街、「発明品市場」が開店。
11（火）●米大統領に贈る愛知県弥富町の金魚が船積み。
12（水）●臨時産業審、八幡製鉄所と民間の合同を答申。
13（木）●文部省、思想問題の「参考良書」推薦を開始。
14（金）●浜口雄幸首相、東京駅で右翼に狙撃され重傷（15日、幣原外相が臨時首相代理となる）。
15（土）●長崎・神戸の三菱造船所、二五〇〇人を解雇。
●第一回全日本柔道選士権大会を開催。
16（日）●争議中の富士紡川崎工場に「煙突男」出現。
●サンマ不漁の鹿島灘でゴンドウ鯨が大漁。
17（月）●尼崎のダンサーが両脚に二万円の保険かける。
18（火）●牧口常三郎ら、創価教育学会を設立。
19（水）●海軍艦政本部、海軍工廠で一万人解雇と決定。
20（木）●初の国立のハンセン病療養所・長島愛生園が開設され、開園式を挙行。
●九鬼周造『「いき」の構造』刊行。
●マッカーサー、米陸軍参謀総長に就任。
21（金）●英のビクター・ブルース、ロンドンから初の女性単独長距離飛行に成功し大阪に到着。
22（土）●上野動物園で第一回動物祭開催。
23（日）●日本眼科医師会、東京で発会式。
24（月）●警視庁、エロ演芸取締規則を通牒。股下六センチ未満のズロースや乳房露出などを禁止。
25（火）●文部省、臨時ローマ字調査会設置を発表。
26（水）●北伊豆地震。M七・三、二七二人死亡。
27（木）●北樺太石油㈱、ソ連と原油購入契約に調印。
28（金）●学生生徒の近視予防のため教科用図書検定基準を改訂。活字の大きさ・行間など変更。
29（土）●中央気象台、北伊豆地震は丹那で発見された四つの大断層の活動によると発表。
30（日）●一月以来警視庁管下の自殺者が一六三五人となり、過去一〇年間で最高を記録。

▲**世界的業績の発明家を顕彰（12月11日）** 国産奨励の一環。本多光太郎、鈴木梅太郎、御木本幸吉、島津源蔵、丹羽保次郎ら10人（一人欠席）が、幣原臨時首相代理らとともに、宮中千種の間で天皇と会食した。

朝日新聞社

▲**こわもての衆議院守衛（12月15日）** 新規採用者が議院前に整列、西村守衛長の訓辞を受けた。昭和2年の議会のように、院外団をまじえた議場での乱闘劇が珍しくなくなったため、腕っぷしの強さが求められた。

◀**吉田茂、イタリア大使に就任（12月6日）** 宮中で天皇の親任を受けた。52歳。奉天総領事時代は「田中積極外交」を支えてきたが、英米との対決を起こすにいたって、この頃から「幣原外交」に転じ、軍部と対立した。

朝日新聞社

◀**1億1600万ドルの失業者救済支出（12月20日）** 米政府が道路建設費などに緊急支出を決めた。しかし、大恐慌の前には焼け石に水だった。写真は街角でリンゴを売る失業者。

▶**大蔵省印刷局のP形工場完成（12月24日）** 棟の形は印刷を意味する英語、プリンティングのPをとった。写真左側が文字の頭。東京・滝野川工場で、凹版印刷機、自動切手印刷機など最新設備を誇った。

◀**日本人形、ロンドンへ（12月）** 子ども博物館に展示する世界の玩具の中にと、東京雛人形卸組合が、羽子板・凧・木地玩具などとともに50種を寄贈。昭和2年、日米間の「人形使節」成功にちなむ試みだった。

朝日新聞社

昭和5年12月

1（月）●三越本店、「御子様洋食」を発売。三〇銭。
2（火）●山陽本線列車内で青年がダイナマイト自殺。
3（水）●警視庁、活動写真弁士の認可試験を実施。
4（木）●三味線のチンドン屋に、洋装女性がクラリネットを吹く新趣向が登場、と新聞に。
●豪政府、日本人による真珠採取禁止令を公布。
5（金）●政府、失業対策公債三四〇〇万円発行を決定。
●大審院、天皇に天徳なしと主張した天理研究会の大西愛治郎を心神喪失として無罪判決。
6（土）●京都・淀競馬場を舞台の詐欺団六〇人検挙。
7（日）●浜口首相の容体を通信社に話した「時事新報」記者を「流言取締り」容疑で丸ノ内署が拘禁。
8（月）●エジプトで人民党結成。反英暴動沈静化。
9（火）●市川猿之助、歌舞伎革新めざし松竹を脱退。
10（水）●東京中央放送局、ラジオ第二の試験放送開始。
11（木）●思想問題で初の私立大総長・学長協議会開催。
12（金）●スペインの共和主義者が反政府蜂起、失敗。
13（土）●一五〇点の国宝指定。個人所有が初の国宝に。
14（日）●広島で厳島国立公園建設期成同盟が発会式。
15（月）●在京一五新聞、政府の疑獄事件での言論圧迫に反対する共同宣言発表（安達内相、陳謝）。
●閣議、国旗の制式と掲揚方法を決定。
16（火）●大阪府交通課の運転手名簿に、五月以来、八人の女性タクシー運転手が登録される。
17（水）●カフェー、バーへの女給税反対大会、開催。
18（木）●「説教強盗」妻木松吉に無期懲役の判決。
19（金）●地方疲弊で都市への家出女性が増加と新聞に。
20（土）●鉄道省、初の省営バスを愛知県で運行開始。
●米議会、失業対策事業用の道路建設費一億一六〇〇万ドルの緊急支出を承認。
21（日）●縁日開催の京都・東寺で火災。観音堂を焼失。
22（月）●宮内省、静岡・小田原の御用邸廃止と発表。
23（火）●文部省、「家庭教育振興ニ関スル件」を訓令。
24（水）●上野発直江津行きスキー列車が満員で初運転。
25（木）●米英からクリスマス放送（翌日、日本から宮城道雄の箏曲を米に向け返礼放送）。
●講談社、「キングレコード」第一回新譜を発売。
26（金）●東京の失業者一五〇〇人を道路清掃に動員。
27（土）●国民政府軍、第一次掃共戦を開始（一月敗退）。
28（日）●高速度滋養料（栄養剤）「どりこの」、発売。
29（月）●横浜港扱いの対米生糸年間輸出総額は二億九〇〇〇万円、前年比四九％の急落。
30（火）●広島瓦斯争議団、警官と乱闘。一七二人検束。
31（水）●正貨高は前年比二八％減の九億六〇〇〇万円。

俄楽多市(がらくたいち)

流行語 エロ・グロ時代のシンボル

「キッスガール」。この年、「キッスガール」という珍商売が登場した。一人歩きの男性をつかまえ、暗がりでキッスさせるというもので、一回五〇銭。六月、横浜に第一号が現れ、夏のうちに銀座や新橋にもお目見えした。続いて、ステッキの代わりに男性と腕を組んで散歩する「ステッキガール」、キャンプに同行する「キャンプガール」などの変種が次々に誕生、エロ・グロ時代の象徴として話題になった。

「オーケー」。英語の「OK」で「いいよ」という意味。九月封切の松竹映画「いいのね誓ってね」の主題歌「ザッツ・オーケー」(多蛾谷素一作詞、奥山貞吉作曲、河原喜久恵歌)がヒット。以来「OK」が一般の会話用語として広がった。

「アラその瞬間よ」。これも同名の松竹映画(五月封切)から出た流行語で、その思わせぶりな感じが受けた。同じタイトルの主題歌もあり、表向きは松竹蒲田音楽部作詞、竹下庄三郎作曲、藤野豊子歌となっている。本当は西條八十作詞、中山晋平作曲、四家文子歌だが、映画の内容があまりに下品なため、全員別名にしたのだという。

▲夏の軽井沢。上流階級の別荘はふえたが、物価が極端に高くなり、「外国人の姿がだんだん減っていく」(「改造」昭和4年8月号)状態だった。

土屋写真館提供

文化 当局への皮肉が大受け プロレタリア演劇上演

昭和五年七月、私は「陣営座」というプロレタリア劇団の一員として舞台に上がりました。作品は浅原健三の「熔鉱炉の火は消えたり」で、場所は高円寺の高松座という小屋でした。

当時は上演前に脚本の検閲があって、この劇でも職工と刑事がもみ合う場面が禁止されました。じゃあ、その場面はどうしたかというと、役者はその場面で演技をストップ、別の団員が「この場面は本当はこうですが、当局にカットされました」と書いた紙を持って場内を回るのです。当局への皮肉をこめた演出でしたが、これが大受け、公演は満員でした。

(毎日新聞西部本社編『「昭和」聞き語り』)

◀『漫画漫文・世相百態』に収録された、藤山テンプ画「洋風夜鷹」。売春婦が"ストリートガール"と呼ばれる時代、ファッションもモガのスタイルに。

日本漫画資料館提供

CM100年

新聞CM「出たオラガビール飲めオラガビール」(寿屋、現・サントリー)

出たオラガビール飲めオラガビール

大 一本廿九銭 大衆飲料ビールの価 本来此くあるべきが眞面目と 瓶から切りまで一切のムダな贅費を切棄て・たゞ中身の正味たけ 満喫して頂きませうの新發賣品

ルービガラオ

ORAGA BEER

LAGER BEER

大瓶 一本 29銭 大瓶 一本 29銭 大瓶 一本 29銭 大瓶 一本 29銭 大瓶 一本 29銭

▲"おらが大将"は、前首相・田中義一のニックネーム。それをもじったヘッド・コピー。

社会 東大法卒が刑務所の看守にアア! 大学は出たけれど

不景気は今や、社会の各方面に深刻な影響をもたらしているが、ついに東大卒の法学士と高文(今の国家公務員I種試験)パスの青年が、そろって刑務所の看守を志願した。司法省では看守の欠員が生じるたびに補充の試験を行っているが、二人はその試験を受験したもので、係官も「せっかく東大卒や高文パスの資格を持っているのだから、もう少しガマンしたら」と忠告したものの、二人は「これ以上遊んでいることはつらい」と言い、月給四〇円で看守になった。

世が世なら内務省、大蔵省へ入るべき人材が、就職できさえすればいいと考えるようになっている

(「都新聞」一〇月二七日)

三面記事 犯罪王アル・カポネの年収

〔シカゴ発〕犯罪王アル・カポネの収入は、一体どれくらいになるのか? 昭和五年、アメリカ政府の調査官が調べて、総収入は年間で二億一〇〇〇万円、その内訳は次のとおりと推定した。

ビール、ウイスキーなどの酒類販売、一億二〇〇〇万円。

賭博場、闘犬場のあがり、五〇〇〇万円。

売春宿、ダンスホールなどのあがり、二〇〇〇万円。

恐喝、寄付金、二〇〇〇万円。

このうちカポネのポケットに入るのは、ざっと六〇〇〇万円くらい。フーバー大統領の報酬が二〇万円(年間)であるから、カポネの三〇〇分の一でしかない。これらのことから、今やアメリカでは「アメリカの昼は大統領が統治し、夜はカポネが支配する」という言葉もささやかれている。

ちなみにこの悪の帝王、満三一歳の青年である。

(「文藝春秋」昭和六年四月号)

▶街頭の夕刊売り。値段は一部一銭五厘。東京には五二〇ヵ所の販売地があった。

朝日新聞社

自然 食用ガエルの餌にザリガニが初渡来!

アメリカのニューオーリンズから、アメリカザリガニが初めて輸入されたのは昭和五年だった。神奈川県岩瀬村(現・鎌倉市)の養殖業者が、食用ガエルの餌として十数匹輸入したのが始まりで、それがいつしか北海道をのぞく日本全土に住みついてしまった。

ザリガニが広がり始めた頃、侵入地では大いに歓迎された。当時はどこの田んぼや湿地にもヒルがいて、農作業する人の足などに食いつき血を吸った。ザリガニはそのヒルを食べてしまうからだ。しかし、まもなく嫌われものになってしまう。ザリガニは秋に交尾すると、オス、メスがそれぞれに田んぼの畦や土手などに棒状の穴を掘って冬ごもりする。そのため田んぼの水もれや、土手の崩壊が頻々と起きるようになったからだ。

(「神奈川新聞」昭和六一年八月一一日)

風俗 エロ取締りの新傾向 貸しボートに警察の目

真夏が近づき、警視庁では着衣の薄物、遊泳場などの取締りを始めたが、今夏からの新方針として貸し船の統一的な取締りを行う。ボートや帆船などの貸し船は、沖へこぎ出せば他人の目を気にしなくていいというので、若者たちが恋をかなでる場所として人気上昇中。それだけにエロチックな事件も多い。さらに最近は不景気で厭世観にとらわれた若者が、一人でこの世からおさらばしたいと、ボートで海へこぎ出すことも。

そこでエロに染まることを防ぎ、自殺の悲劇を未然に防ぐために貸し出し時間や、船内にエロの雰囲気を助長させるものをおいてないかなどを厳しくチェックする

(「読売新聞」六月二二日)

◀東京・三越本店の大食堂のメニューに、「御子様洋食」が登場。一人前三〇銭。

三越提供

▶長野市の園芸品評即売会では、八月一〇日、「トマト食い競べの夕べ」を催した。

朝日新聞社

この年の初もの 最新の水着ショー 銀座・松屋で開催

●**冷凍食品** 三月、アメリカ・マサチューセッツ州のスプリングフィールドで発売。豆、ホウレンソウ、魚に各種の肉類。

●**ママレード** イギリス留学から帰国した相馬正胤が製造・販売。ただし酸味や苦みが強いとして、あまり売れなかった

●**野球用スコアボード** 日本信号が製造、東京・日比谷公園野球場に設置。

●**自動式交通信号機** 警視庁がアメリカから輸入し、東京・日比谷交差点に設置

はやり歌

唐人お吉の唄(黒船編)

作詞 西條八十　作曲 中山晋平

思い出します　お吉の声を
磯の千鳥の　啼く音にさえも
下田港の
下田港の黒船ゆえに
うたう涙の　明烏　サイナ
恋の黒船　煙よりうすい

▶日活映画「唐人お吉」の主題歌から流行した。「黒船編」と「明烏編」があり、佐藤千夜子と藤本二三吉が歌って、A面B面を構成。

福田俊二提供

仇な情の　一夜の妻よ
お吉可愛や
お吉可愛や　領事館がよい
黄楊の横櫛　洗髪　サイナ
雨よ降れ降れ　降る亜米利加に
どうせ乾かぬ　この袖たもと
今日も暮れるか
今日も暮れるか　下田の海は
青い眼のよな　波の色　サイナ

すみれの花咲く頃

訳詞 白井鐵造　作曲 F・デーレ

春　すみれ咲き春を告げる
春　何故人は汝を待つ
楽しく悩ましき　春の夢
甘き恋に　人の心酔わす
そは汝　すみれ咲く春
すみれの花咲く頃

初めて君を知りぬ
君を思い　日毎夜毎
悩みしあの日の頃
すみれの花咲く頃
今も心ふるう
忘れな君　我らの恋
すみれの花咲く頃

◀宝塚少女歌劇団の月組公演、「パリゼット」の主題歌として歌われた。その後、今日にいたるまで宝塚の代表曲に。

宝塚歌劇団提供

世界の動き

徹底した"非暴力"で英国の支配に対抗 二五日間、竹の杖一本で三九〇キロを歩く ガンジーの「塩の行進」スタート！

▲61歳のガンジーは行進中、「1日2度に分けて12マイルたらず歩くことは、子どもの遊びだ」と語っている。 ユニフォト・プレス

▲国民会議派の代表として、第2次円卓会議に出席したガンジー。ロンドン到着は1931年9月12日、以後84日間イギリスに滞在した。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

ひとつの行進が、世界中の耳目を集めていた。その先頭に立つのは、非暴力主義を掲げるガンジーである。数千人の集団に膨れ上がった「塩の行進」は、「塩税廃止」を訴えるもので、直接「インドの独立」を要求するものではなかったが、人々を奮い立たせ、民衆に「独立」の達成を確信させる行動となった。

塩の塊をつまみ上げ法を犯したガンジー

一九三〇年三月一二日、インド西部のサーバルマティから、アラビア海に面するダンディー海岸まで、約三九〇キロにわたる行進が開始された。先頭を歩くのは、「インド独立の父」、モハンダス・カラムチャンド・ガンジー（六一）だった。当時のインドはイギリスからの独立の気運が高まり、インド総督らは神経をとがらせていた。前年一二月、ガンジーが指導する政党、インド国民会議派大会で、完全独立が決議されたからである。

丸縁の眼鏡に、薄いショールと腰布、竹の杖というスタイルで、ガンジーは誰よりも早く歩いた。行進はガンジーのほか、七八人――イスラム教徒やキリスト教徒、「不可触民（ハリジャン）」も含まれていた――が同行する巡礼の装いだった。そしてこの行進に世界の目が集まったのである。

「出発の日には、ガンジー逮捕の噂が流れたこともあり、一〇万人の大群衆が集まりました。そして、行く先々で、村人が道路を掃除し、水をまき、インドの民族旗を掲げて歓迎したのです」（東京外国語大学・内藤雅雄教授）

小休止するごとに、ガンジーは辻説法を行った。当時のインドは塩の専売制度が敷かれ、海辺に住む人でさえ勝手に塩を作れなかった。灼熱のインドでは、激しい発汗をともなう肉体労働や、家畜によって、大量の塩が消費されていた。平均的な労働者の三日分の賃金に相当した塩税は、貧困層の大きな負担で、呪詛のまとだった。ガンジーは、塩税の不当さを訴え、地租の引き下げ、そして軍事費の削減など一一項目の要求を唱えた。さらに、村役人に辞職を勧め、一行の通過した村々では、ガンジーに呼応して三〇〇人以上の村長が職を離れた。

民衆は次々と行進に加わり、ダンディーに着いた四月六日には、数千人の非暴力集団に膨れ上がっていた。そしてガンジーは、海岸に散らばる塩の小さな塊をつまみ上げ、公然と法を犯して見せたのである。

これをきっかけに、インド各地では、おびただしい人が塩作りの手鍋を持って海に向かった。国民会議派は義勇隊を結成し、大っぴらに塩を販売。各地で大小さまざまな集会が開かれ、「不法製造」の塩のオークションまで行われた。

これに対し、治安当局は大量検挙を開始。ガンジー自身も、後のインド首相、ジャワハルラル・ネルー（四一）も投獄された。集会場から数百人もの人が隊列を組んで、刑務所に向かう姿も各地で見られた。逮捕者は数十万人にのぼったが、誰もが抵抗せず、刑罰を甘受した。悪法を意図的に犯し、そして刑罰を受けるのがガンジー流だった。が、たんに進んで受刑しただけではない。指導者が逮捕されると、人々は"一斉休業（ハルタール）"で対抗した。弾圧の一方で、イギリス当局は、不法製塩の取締りを指示したが、待っていたのはそれを実行する役人の辞職であった。ガンジーは武力などの激越な方法はとらず、徹底した非暴力で統治機能を麻痺させていったのである。

ネルーも脱帽した「些末な要求」戦術

当時のインドが直面する最大の課題は、「独立」だった。ところが、ガンジーがイギリス当局に突きつけた要求には、これが含まれていない。塩などに焦点をしぼる、一見「些末」な要求ばかりだった。

事実、ネルーですらこれに疑義を呈していた。「独立を語っている時に、政治的、社会的な改革の一覧表を作ろうとする目的は何か」と書き残している。だが、塩税反対という「些末」な問題を通じて、民衆は熱狂的にガンジーを支持し、結集していった。塩という身近なテーマがそのまま独立と結びついて、高度な政治問題に凝縮され、運動が急激な広まりを見

▶一九二四年、ガンジーはヒンズー教徒とイスラム教徒の融和を祈願して、断食を行った。かたわらにいるのは、インディラ・ガンジー

外から見たNIPPON

インド独立の志士、ビハリ・ボースを支えた"日露戦争観"

——佐伯 修

日本の近・現代史に名を残す、ボースという名のインド人には、ラーシュ・ビハリ・ボースとスバス・チャンドラ・ボースの二人がいる。このうち、ラーシュ・ビハリの名は、太平洋戦争中「大東亜共栄圏」の指導者の一人として、「インド国民軍」を率い、日本軍とともに戦ったスバスの、華々しい名声の陰に隠れ、現在、あまり語られることがないように思われる。

また、この二人は、同じベンガル州出身で、武力による英国からの独立をめざした点でも共通するが、英国に留学し、共産主義や欧州のファシズムの洗礼を受けた近代的なスバスに対し、より土着的、民族主義的なラーシュ・ビハリは、学業を捨てて、早くから大衆工作や英当局への破壊工作などの直接行動に投ずる、といった具合に思想のスタンスも異なる。

ラーシュ・ビハリ・ボース（一八八六〜一九四五）の名は、今や、むしろエロシェンコ直伝の「ボルシチ」と並ぶ新宿・中村屋のロングセラー商品「インド・カリー」の伝え手として知られているようだ。大正四年、対英テロに失敗したラーシュ・ビハリは日本に逃れたが、日本の警察にも追われる身となった。彼を、頭山満や宮崎滔天とともに守り抜いたのが、中村屋の相馬愛蔵・黒光夫妻である。ラーシュ・ビハリは夫妻の長女・俊（俊子）と結婚、日本国籍を取得、俊とは死別するが、約三〇年間にわたって、日本でこつこつと運動を続け、「インド独立連盟」を創立した。

そんなラーシュ・ビハリは、この年刊行した中谷武世との共著『革命亜細亜展望』の「序」で、こんなことを述べている。

「日本国民の多数は、日露戦争の結果を、その正しき意義に於て認識することを忘れて居るが、此の戦争が世界史に於て持つ意義は限りも無く大きい。

全亜細亜、全有色諸民族の自覚と崛起とは、実に一九〇四―五年戦争の刺戟に依る。此の戦争に於ける有色日本の勝利は、全亜細亜の民衆の胸に、欧羅巴人によりて奪われたる彼等の自由を奪還するの希望と確信とを萌芽せしめたのである」

巨大な白人帝国、ロシアに立ちむかう日本の姿は、若きラーシュ・ビハリを独立運動へ向かわせる大きなきっかけになったと思われる。しかし、日露戦争後二五年を経た当時の日本人は、アジアの人々の記憶する、強者・覇者に対する弱者の抵抗戦としてのこの戦争の一側面を忘れかけようとしていたのではなかろうか？

昭和二〇年一月、ラーシュ・ビハリは空襲下の東京で世を去る。

中村屋提供

▲日本に逃れて来た当時のボース。

せたのである。

ネルーは言う。

「国中が熱狂しているのを見、燎原の火のごとく製塩法が拡がるとともに、我々はガンジーの提案の効果を疑ったことを恥じた」

「塩の行進」は、イギリスの統治機能を著しく弱体化させた。役人が非協力的になり、徴税機能が麻痺したためである。結果的にインド総督はガンジー、ネルーらを釈放せざるをえなくなった。それどころか、ガンジーを敵にまわしてはインド統治が不可能であることを骨の髄まで知らされたのである。それは、インドを独立させる以外に方法がないという認識にほかならなかった。

釈放されたガンジーは、翌一九三一年八月、インドの憲法問題を話し合う英印円卓会議に出席のためロンドンに向かう。会議そのものは、イギリスとインド諸勢力の利害がぶつかり合い、失敗に終わった。しかし、訪欧したガンジーは、ヨーロッパの知識人から大歓迎を受けた。バーナード・ショー、ハロルド・ラスキ、チャールズ・チャップリンらが「アジアの聖者」ガンジーに面会した。帰途にはレマン湖に寄り、ロマン・ロランと五日間をすごしている。

西欧近代のいき詰まりに悩む知識人たちは、発想の回路が違うガンジーに、突破口をつかむヒントを求めたのであろう。

「ガンジーにとって『塩の行進』を行った一九三〇年代は、大きな成果を上げると同時に不本意な時期でもありました。ガンジーはヒンズー教徒とムスリム（回教徒）が手をたずさえた独立を模索していましたが、三〇年代以降は逆に対立が尖鋭化し、流血の事態さえ生まれ始めたからです。そして結果的に、インドとパキスタンの分離にいきついてしまいました」（前出・内藤教授）

インドの独立達成後の一九四八年、ガンジーは狂信的なヒンズー至上主義者の凶弾に倒れたのである。

M・K・ガンジー（1869〜1948）
インドの思想家、政治家。一八八九年、ロンドンで弁護士に。帰国後、国民会議派を中心とした非暴力抵抗運動を展開、イギリスに撤退を要求した。

▶一九四八年一月三〇日に死去したガンジーの遺灰は、ヒンズー教聖典の規定どおり、死後一四日目にインドの河に流された。

往きて還らぬ

▲3月2日　D・H・ローレンス(44)
英の小説家。『チャタレー夫人の恋人』(1928年)で知られる。その性描写が論議を呼び、邦訳も裁判沙汰となった。

▲3月28日　内村鑑三(69)
明治から大正期のキリスト教の代表的指導者。無教会主義を唱え、知識人に影響を与えた。足尾鉱毒問題でも発言。

▲4月29日　島田清次郎(31)
小説家。大正8年「地上」発表、一躍流行作家になるが、12年婦女暴行事件を起こし人気失墜、精神病院で死亡。

▲5月10日　下村観山(57)
日本画家。明治31年日本美術院創立に参加、大正3年には同院を再興しリーダーに。代表作に「木の間の秋」など。

▲5月13日　田山花袋(58)
明治から大正期の小説家。明治40年『蒲団』、42年『田舎教師』刊行、自然主義文学運動を先導。紀行文でも知られた。

▲6月7日　豊竹呂昇(55)
明治から大正期の女義太夫。大阪の寄席で人気を得、東京に進出。美貌と美声、三味線の弾き語りで一世を風靡した。

▲5月19日　生田春月(38)
大正期の詩人。大正6年処女詩集『霊魂の秋』の刊行で名声を確立。ハイネなどの詩の翻訳も多い。船から投身自殺。

▲7月7日　A・C・ドイル(71)
英の小説家。名探偵シャーロック・ホームズの生みの親。医者でもあり、晩年は空想科学小説も手がけた。

オリオン・プレス

▲8月4日　S・ワーグナー(61)
独の作曲家で、1896年バイロイト記念上演（現・音楽祭）指揮者に。父は歌劇で有名なW・R・ワーグナー。

▲10月30日　豊田佐吉(63)
明治から大正期の発明家。豊田式自動織機などを発明し、国産自動車の研究開発を長男に託す（現・トヨタ自動車）。

▲11月4日　秋山好古(71)
明治から大正期の軍人で、騎兵の育成者。陸軍乗馬学校（後の騎兵実施学校）校長、教育総監を歴任。大正5年大将。

▲11月9日　浅野総一郎(82)
明治から大正期の実業家。石炭商を経て、明治31年浅野セメント会社創設。多角経営により、浅野財閥を築く。

▲11月29日　3代目柳家小さん(73)
落語家。明治28年3代目を襲名。「らくだ」は絶品と言われ、夏目漱石も作中で「小さんは天才だ」と記している。

定価560円
雑誌 23713-7/21　T1123713070562
Ⓛ-2001/1/1
©KODANSHA 1998 Printed in Japan
印刷 凸版印刷株式会社　製本 大村製本株式会社